

特  
798

大阪鐵道  
名所案内

大阪鐵道會社長 田部密君序

發行元

寧樂書房

大阪田購文堂

五峯隱士  
塚田武馬編述

小序



群動之生息於天地間。皆各寓一  
氣焉。鶯戾於天。魚躍於淵。天  
機之發動。不能已者。其如斯歟。  
况於其靈者乎。况於寰宇進化之  
勢。磅礪而不能禦之時乎。豈可  
游戲於卑狹。沈湎於淫逸哉。頃  
日五峰隱士。有見於此。編一書。  
便於大阪鐵路之游覽。夫和河之  
爲地。自神祖偉業。至於列聖之  
文物。無不創開於此者。如宮址。  
如陵墓。在古樹鬱蒼之間。一藹  
之下。俯仰千古。低回不能去矣。  
若夫古廟太祠。古刹名藍。耕種

樹藝蠶桑收畜水利建築。及書畫  
女紅諸美術。可徵於學事。可徵  
於事業者。不違枚舉焉。加以清  
麗之山水。使心身靈動活潑。所  
得果何如耶。洋客之入我邦者。  
必先遊於南都。蓋有以哉。吾  
人之處於今世。當酬皇運。務進  
化者。游覽之事。豈其可輕視哉。  
乃冕此言冠首。以告世之讀此書  
者。

明治二十七年十一月一日

菅園田部密



凡例

一本書は大坂鐵道線路各地停車場近傍の名  
區勝蹟を記載し鐵道旅客の漫遊、探勝の  
道案内に供せんとする者なり而えて其地  
は編者躬ら實踐して起稿せしものなれば  
稍正確なるを自信と

一本書は初め一枚摺り印刷して出版とべき  
書肆の計畫なりしを以て可成字句と省略  
したるが爲に音響沮澁し恰外客の和語を  
爲を聴が如き感あり稿成るに及で紙數意  
外に出み已を得せして冊子と爲す請ふ其  
拙を責と刪削を賜へは幸甚

一本書を載する所の名區勝蹟の各停車場よ  
り距離最近者のみを擧たれば遺漏固よ  
り多し且歴史上著名の吉野山をも登録と  
るを得ざりし

一起稿の初に在ては停車場毎に人力車賃金

表を挿入<sup>サツラ</sup>するの考にてありしも此事たる時々變更あるが爲お却て旅客を感<sup>アヤハ</sup>その恐ければ殊更に之を省<sup>シ</sup>けり  
 一人力車賃金は平道一里四錢以内、小難道同五錢、大難道同八錢、半日雇切二拾錢以内、一日同卅五錢以内、市街及端數十町以内二錢以上五町毎一錢増額、風雨又は道路泥濘<sup>ドロドロ</sup>の際及夜間は二割以上の増賃と取るものとす

明治廿七年十月十五日

編者識

目次

●大阪鐵道	一頁	天王寺村	八頁
●湊町停車場	全頁	茶臼山	全頁
大阪市	二頁	邦福寺	全頁
道頓堀	三頁	四天王寺	全頁
千日前	全頁	一心寺	一頁
法善寺	四頁	安井神社	一二頁
自安寺	全頁	夕陽岡	全頁
新金刀比羅社	全頁	新清水寺	全頁
瑞龍寺	全頁	音羽瀑布	一二頁
八阪神社	五頁	生國魂神社	全頁
敷津松宮神社	全頁	高津神社	一三頁
難波停車場	全頁	高倉稻荷社	全頁
眺望閣	全頁	●平野停車場	一四頁
廣田神社	六頁	平野郷町	全頁
●今宮神社	全頁	平野紡績會社	全頁
合邦ヶ辻	七頁	大念佛寺	全頁
商業俱樂部	全頁	杭全神社	一五頁
●天王寺停車場	全頁	●八尾停車場	全頁

表を挿入するの考にてありし此事たる時々變更あるが爲ふ却て旅客を感<sup>アハ</sup>その恐あれば殊更に之を省けり

一人力車賃金は平道一里四錢以内、小難道同五錢、大難道同八錢、半日雇切二拾錢以内、一日同卅五錢以内、市街及端數十町以内二錢以上五町毎一錢増額、風雨又は道路泥濘の際及夜間は二割以上の増賃と取るものとす

明治廿七年十月十五日

編者識

目次

●大阪鐵道	一頁	天王寺村	八頁
●湊町停車場	全頁	茶臼山	全頁
大阪市	二頁	邦福寺	全頁
道頓堀	三頁	四天王寺	全頁
千日前	全頁	一心寺	一〇頁
法善寺	四頁	安井神社	一一頁
自安寺	全頁	夕陽岡	全頁
新金刀比羅社	全頁	新清水寺	全頁
瑞龍寺	全頁	音羽瀑布	一二頁
八阪神社	五頁	生國魂神社	全頁
難波停車場	全頁	高津神社	一三頁
眺望閣	全頁	高倉稻荷社	全頁
●廣田神社	六頁	●平野停車場	一四頁
●今宮神社	全頁	平野郷町	全頁
合邦ヶ辻	七頁	平野紡績會社	全頁
商業俱樂部	全頁	大念佛寺	全頁
●天王寺停車場	全頁	杭全神社	一五頁
		●八尾停車場	全頁

八尾村	一五頁	朝護孫子寺	二三頁
顯證寺	全頁	龍田神社	二四頁
勝軍寺	一六頁	●法隆寺停車場	二五頁
首洗池舊址	一七頁	法隆寺村	全頁
守屋塚	全頁	法隆寺	全頁
澁川神社	全頁	法輪寺	二七頁
枚岡神社	全頁	法起寺	全頁
大信寺	全頁	廣瀨神社	全頁
●柏原停車場	一八頁	●郡山停車場	二八頁
柏原村	全頁	郡山町	全頁
玉手山安福寺	全頁	藥園八幡神社	二九頁
道明寺天滿宮	一九頁	郡山城址	全頁
譽田神社	二〇頁	柳澤神社	三〇頁
應神天皇御陵	二一頁	植槻神社	全頁
葛井寺	全頁	羅城門古址	全頁
●王寺停車場	二二頁	金剛山寺	三一頁
王寺村	全頁	松尾寺	全頁
達磨寺	全頁	八幡神社	三二頁
孝靈天皇御陵	三三頁	藥師寺	全頁

赤膚山陶窯	三四頁	春日野	三九頁
唐招提寺	全頁	馬出橋	全頁
垂仁天皇御陵	三五頁	御旅所	全頁
喜光寺	全頁	雪消澤	全頁
菅原神社	三六頁	車舍	全頁
菅原第址	全頁	二鳥居	全頁
●奈良停車場	全頁	祓戸神社	全頁
奈良町	三七頁	神垣森	四〇頁
開化天皇御陵	全頁	劍先道	全頁
率川神社	三八頁	燈爐	全頁
橋本町	全頁	着到殿	全頁
猿澤池	全頁	白藤瀑布	全頁
采女社	全頁	春日神社	全頁
衣掛柳	全頁	春日若宮	全頁
率川	全頁	手水屋	全頁
荒池	全頁	御間橋	四一頁
大御堂	全頁	官幣大社春日神社	全頁
大鳥居	三九頁		
淺茅原遊園	全頁	水谷神社	四二頁

水谷川	四二頁
氷室舊址	全頁
春日山	全頁
若草山	四三頁
鶯陵	全頁
手向山	全頁
手向山神社	全頁
三月堂	全頁
二月堂	四四頁
若狹井	全頁
良辨杉	全頁
開山堂	全頁
三昧堂	全頁
念佛堂	四五頁
淨土堂	全頁
鐘堂	全頁
大佛殿	全頁
金銅燈炷	四七頁
南大門	全頁

吉城川	四七頁
戒壇院	全頁
正倉院	全頁
佐保路門	全頁
佐保川	四八頁
北山十八間	全頁
般若寺	全頁
轟橋古址	全頁
雲井阪古跡	全頁
氷室神社	四九頁
帝國奈良博物館	全頁
興福寺	全頁
師範學校	全頁
大湯屋	全頁
東金堂	全頁
花の松	全頁
五層塔	全頁
金堂	全頁

裁判所	五〇頁
北圓堂	全頁
南圓堂	全頁
金銅燈炷	全頁
三層塔	全頁
極樂院	全頁
元興寺	五一頁
十輪院	全頁
新樂師寺	全頁
聖武天皇御陵	五二頁
興福院	全頁
不退寺	全頁
海龍王寺	五三頁
法華寺	全頁
平城都城	五四頁
西大寺	五五頁
秋篠寺	五六頁
寶山寺	五七頁
●下田停車場	五八頁

下田村	五八頁
石光寺	全頁
當麻寺	五九頁
二上山萬法藏院	全頁
二上山	六〇頁
櫛羅瀑布	全頁
御所町	全頁
茅原山吉祥寺	六一頁
●高田停車場	全頁
高田町	全頁
●畝傍停車場	六二頁
八木町	全頁
今井町	全頁
綏靖天皇御陵	全頁
神武天皇御陵	全頁
三ツ山	六三頁
檀原神宮	全頁
久米寺	六四頁
欽明天皇御陵	六五頁

吉備姫王墓	六五頁	文珠院	七四頁
高取町	全頁	石窟	全頁
高取城	六六頁	●櫻井停車場	七五頁
南法華寺	全頁	櫻井町	全頁
高香山	六七頁	談山神社	七六頁
橘寺	六八頁	鎌足公墓	七八頁
岡寺	七〇頁	初瀬寺	七八頁
酒槽石	七一頁	長谷寺	全頁
鳥形山安居院	全頁	與喜天滿神社	八〇頁
飛鳥神社	全頁	三輪町	八一頁
向原寺	七二頁	大神神社	全頁
甘檀岡	七三頁	大和神社	八二頁
香久山	全頁		

目次終

一 誤	十八行	右するハ	
二	五行	左するハ	
二 全	十一行	當りハ	
全	十二行	●にハ	時
全	十六行	●にハ	ナリシモミカシホオコ
三	十五行	●にハ	ナミハナ
四	八行	●にハ	ラレツ
十一	十一行	●にハ	ワウ
十一	十五行	●にハ	ヤス井
十一	十五行	●にハ	テウシヨク
十三	十五行	●にハ	シンキヨミツ
十三	十三行	●にハ	イウカカゲ
十九	十三行	●にハ	遠颯に
二十	十行	●にハ	●は
二十三	六行	●にハ	●は
二十三	十三行	●にハ	●は
全	全	●にハ	●は
二十五	三行	●にハ	●は
二十六	四行	●にハ	●は
二十九	五行	●にハ	●は
三十一	五行	●にハ	●は
三十四	九行	●にハ	●は
三十七	十五行	●にハ	●は
四十一	三行	●にハ	●は
四十一	三行	●にハ	●は
四十一	三行	●にハ	●は
四十一	三行	●にハ	●は



四十六	三行	○ハハ	クワイラウ
四十七	八行	○ハハ	一丁半
四十八	十二行	○ハハ	ギヨモツ
四十九	十六行	○ハハ	○シウクワウクワウコウ
五十	二十行	○ハハ	○オホサバキノミコト
五十一	二十四行	○ハハ	トウロフ
五十二	二十八行	○ハハ	アウシヨク
五十三	三十二行	○ハハ	清麗
五十四	三十六行	○ハハ	シユクハイ
五十五	四十行	○ハハ	を模
五十六	四十四行	○ハハ	之が嘴矢たりと
五十七	四十八行	○ハハ	近年
五十八	五十二行	○ハハ	今工事最中
五十九	五十六行	○ハハ	今本寺
六十	六十行	○ハハ	敷個
六十一	六十四行	○ハハ	ブツツサン以下全
六十二	六十八行	○ハハ	○キダウ
六十三	七十二行	○ハハ	○シユク
六十四	七十六行	○ハハ	沃
六十五	八十行	○ハハ	沃
六十六	八十四行	○ハハ	沃
六十七	八十八行	○ハハ	沃
六十八	九十二行	○ハハ	沃
六十九	九十六行	○ハハ	沃
七十	一百行	○ハハ	沃
七十一	一百零四行	○ハハ	沃
七十二	一百零八行	○ハハ	沃
七十三	一百一十二行	○ハハ	沃
七十四	一百一十六行	○ハハ	沃
七十五	一百二十行	○ハハ	沃
七十六	一百二十四行	○ハハ	沃
七十七	一百二十八行	○ハハ	沃
七十八	一百三十二行	○ハハ	沃
七十九	一百三十六行	○ハハ	沃
八十	一百四十行	○ハハ	沃
八十一	一百四十四行	○ハハ	沃
八十二	一百四十八行	○ハハ	沃

大阪鐵道名所案内

五峯隱士編述

大阪鐵道は大阪市南區湊町に起り今宮村の南に於て阪堺鐵道の上を横ざり東して天王寺驛に至り更に南行して平野橋八尾河柏原河の三驛を過ぎ大和川の流域に沿ひて三個の隧道を通し三度川を渉り大和に入り王寺驛に至り分岐し右を走るものは其幹線にして法隆寺、郡山の二驛を経て奈良に達し幹線の長さ二十五哩三十七鎖、又左を走るものは其支線おして王寺驛より下田、高田、畝傍の三驛を過ぎ櫻井に至り止む支線の長さ二十九哩十鎖幹支兩線の総延長五十四哩四十七鎖なりとぞ

●湊町停車場 は大阪府攝津國西成郡難波村に在り、此地は大阪市街の南端道頓堀川の南岸湊町の南に接續し蓋鄰接の町名を取

しは阪堺鐵道と其名を同ふるが故なる。  
 大阪市は攝津國の南部に位し東成西成の  
 二郡に亘る都會にして西は海灣を擁し北東  
 南は平野に連り海陸の衝に當り、廣袤は東  
 西一里十四町、南北二里十二町之を東西南  
 北の四區に分ち四區役所を置て以て管治を  
 全市戸數九万二千百餘、人口四十八万三千  
 有餘、風俗優柔奢侈に流ると雖商業上には  
 頗機敏なり、神武天皇日向より此地に到坐  
 會有奔潮太急因て以て浪速の  
 國と名け亦浪華とも云今難波と謂は訛也と  
 書紀に見ゆ又後世大江阪と稱せしを遂に約  
 て大阪と云、天正年豊臣秀吉今の大阪城を  
 築しより以來諸國の商工此に聚り歲月を經  
 て益盛大に業を營む愈機敏にして遂に商業  
 の中心を以て稱せらる、今日の隆昌に至る

◎道頓堀は南區道頓堀川の南岸を云、西  
 は戎橋南詰東へ日本橋に至る三四町の總稱  
 にして正しくは櫓町と稱す川は昔時安井道頓  
 某の開鑿する所と云故に此名ありと古記に  
 見えたり此地は停車場の東三丁許の處にあ  
 りて大阪市中最も繁華を極むる衆人の麤集  
 るる所にして南側には浪花、中、角、朝日  
 、辨天、五座の劇場櫓を並べ其北頬即ち濱  
 側は芝居茶屋、料理店等軒を列ね道路は晝  
 夜人を以て充塞せり其賑ひ幾千人なると知  
 らる

◎千日前は停車場を距る東三町許、角座  
 劇場の角を南へ入る所を云ふ千日寺の舊地  
 なるが故なり維新以前は千日六坊とて寂寥  
 たる墓所にして處刑場にて在しと云今は諸  
 藝觀物小屋三四町の間羅列し鉦鼓の音客  
 を呼ぶの聲四邊を轟かし頗る喧噪を極む、

遊客幾百雲集腐至と中にも拘摸の隙を窺て徘徊するあり殊に注意せざるべからむ

◎法善寺 千日前西側あり、淨土宗にして阿彌陀如來を安置と○金刀比羅社 寺内あり賽者常に絶えず、寺内に寄席、茶店多し

◎自安寺 は法善寺の東南にあり妙見宮を安と

◎新金刀比羅社 は自安寺の一町南あり近年の創建にして社殿壯麗なり

◎瑞龍寺 (西成郡難波村大字難波) 新金刀比羅社より三丁南西、難波村の北新川叶橋西詰にあり、初め藥師寺と号と後ち漸く衰ふに及て延寶四年鐵眼和尚之を再興と因て俗に鐵眼寺と呼ふ禪宗にまて黄蘗派に属と本堂には藥師如來及十二神將等を安と○天王堂には彌勒菩薩を置く、寺域二千餘坪

◎八阪神社 (全村) 瑞龍寺の南二町許にあり、社殿瀟灑にして須佐之男命を祭る當村の産土神に坐と、八王子社、稻荷社、天神社等比末社境内に散羅と又綱引神事と云古式あり正月十四日之を行ひしが維新後は廢絶せり

◎敷津松宮神社 (西成郡木津村大字木津) 瑞龍寺より南三丁許、須佐之男命を祭る、境内に大國主の社あり毎月甲子の日に之賽者群參と、社内に庭園あり木石の配置宜く風趣最佳なり

◎難波停車場 (南區難波六番町) 道頓堀戎橋より數町南にあり阪堺鐵道と號し大阪より堺市に至る狹軌鐵道にして其乗客の多き收益の饒なる私設鐵道の首位を占むと云

◎眺望閣 (難波停車場の傍) 五階の洋館巍々中天に聳ゆ登臨すれば大阪全市眼下にあ

り景趣殊に善し

◎廣田神社 (西成郡今宮村) 湊町停車場を距る十町許南に在り住吉街道に方る、本社アマテラススオホミカミは天照皇大御神の荒御魂と祭鎮と、境内アラミに祇園社、稻荷社等あり、古へより京都祇園會に當村より輿丁ユタイを出せ恒例たりしも今其事廢れたり境内萩多し

◎今宮神社 (全村) 廣田神社の南に接續ヒツツクと世俗蛭子神社又は今宮の戎エビスと云是なり、祭る所は天照大神、蛭子尊ヒルコノ、大己貴命オホナムケノ、須佐之男命スサノ、月讀命の五柱イツハンラガツシを合祀し、毎歳一月十日には十日戎と稱へ賽者雜沓と、道頓堀戎橋筋より當社に至る數町の間道路の中央に細ナハを引渡して其往來と別つ以て當日の盛況スイチを推知せらる是日大阪南地五華街の藝娼妓は寶惠駕ハウエカミと云ものに乗りて參詣と之を見るも亦一興キヨウなり

◎行邦ヶ辻 (商業俱樂部の北向ひ) 近頃迄は閻魔王エンマの像ありしと聞く今は則亡ナし

◎商業俱樂部 (今宮村) 今宮神社より三丁許東にあり、此地は大阪日本橋筋南の端なり、本部の面積六千餘坪にして周圍鐵柵テツサクを以て之を遶コレし表門メクラの石造の壯觀なり明治廿二年の新築にして入場券三錢を取りて縦覽シュニツランせしむ陳列品には定價を附して之を鬻ヒクく、場内キツサ到る處に喫茶亭割烹店アイカツハクヤンを設け泉池あり庭園あり頗る雅趣ガシユを盡せり

此今宮村より湊町へ戻るは迂回ウワヅレあれば左記の順序シタガツに従て巡回シタガツせし〇一心寺より以下の順序サイシツ記載の如く一巡し最終の高倉稻荷神社より四天王寺へ到り次よ邦福寺次に茶臼山に終り天王寺停車場トウテンジを行くを宜とす

●天王寺停車場 (東成郡天王寺村) 天王寺停車場は四天王寺西門より三丁南に

あり湊町より二哩二十二鎮なり

◎天王寺村 は大阪市の南端、今宮村の東  
みあり戸數四千三百餘戸、人口一万五千九  
百餘

◎茶臼山 は停車場より五町西北にあり、  
雑樹叢鬱たる一小丘陵是あり、相傳ふ仁德

天皇の御陵を茲に築かんと欲して變更せり  
仍て一名荒陵と呼ふ慶長年豊臣秀頼陣營を

此所に設く元和元年真田幸村茶臼山の激戦  
即是あり

◎邦福寺 は茶臼山の東南ふあり、禪宗お  
して俗に雲水と呼ふ、庭園ハ深濶閑雅おし

て精進料理を以て名高し韻士雅客の喜ぶ所  
たり

◎四天王寺 (東成郡天王寺村大字天王寺)  
は停車場より四丁北にあり、荒陵山と号と

天台宗の古刹にきて初め用明天皇の二年聖

德太子東成郡玉造の岸上に創造、推古天皇

元年今の地に移して荒陵寺又敬田寺といふ

四天王寺とは太子守屋を討んと欲して白膠

木を斬り四天王の像を刻て之を髻髪の中お

安じ誓て曰く官兵勝ことと得ば當に護世四

天王寺を建べしとは是なり當時の境内南北一

里、東西一里餘と釋書に見えたり、後ち天正

及ひ元和年二回の兵燹に罹り焼失し寛文四

年に至て徳川家綱再建せられて舊觀お復と

今の境内、東西八町、南北六町餘、當寺來

歴尤多し文字に限りあれば今其要を記さん

に西門には石の鳥居あり額は小野道風の筆

と傳ふ (五層塔) (引聲堂) (短聲堂) (妙見堂  
(五智光院) (轉輪藏) (喫茶所) (納骨所) 等  
あり南に (萬塔院) 北に (上の池) (鐘堂)  
(六時堂) (舞樂堂) (大黒堂) (坊舎) (鏡の池)  
(椎寺古跡) (金堂) (雲水塔) (中門) (三王

門) (太子殿) (猫門) (虎の門) (天皇の宮) (三味堂) (講堂) (棚所) (經書堂) (層輪塔) (石神祠) (閼伽井) (龜井の水) (寶藏) (卷物橋) 等なり、參詣常に絶ゆる中にも春秋の彼岸會、八月の千日詣等おは露店寺内に塞がり賽人蟻集して寸地を餘さざり、公園は西門の西北にあり、反別九町餘にして櫻樹、萩等を栽植し花時には園内に酒肆、茶亭の設あり多くは田樂を鬻ぐ名物あればあり

◎一心寺 は四天王寺西門より一町西に方る宇逢阪の上にあり、坂松山高岳院と號せ淨土宗にして圓光大師の創建せる所たり、大師舊跡廿五ヶ所の一なり現堂は慶長年下総佐倉の清光寺存岸上人遠く大師の遺蹟を尋ね來りて卒に再興と云、寺内庭樹多くえて閑靜なり本堂おは阿彌陀如來を安と長三尺毘首羯摩の作と傳ふ、満干の手水鉢、

駒繫の松としてあり、御影堂、納骨堂、二階堂、大師堂等なり、墓地に幾多の古墳あり本多忠朝の墓其中にあり

◎安井神社 一心寺の西門半丁北にあり、世俗安居天神と呼ふ、祭る所は少彦名命と聞、社頭に名水あり安井と云仍て社號とそ相傳ふ菅公左遷の日暫時茲に休らひ給ふ故に亦安居と云と

◎夕陽 岡は安居社内あり、俗に天神山と稱する一小阜丘是なり、此地高燥にして西方豁然眺瞻最佳なり、崖下は梅林にして又遠く田畝を望む清水舞臺と相伯中と○家隆卿墳は小高き處にあり東に夕陽庵あり即ち卿が居跡あり

◎新清水寺 は安井神社の傍にあり、堂宇は懸崖に憑て之を建つ、本堂の西面に舞臺あり大阪全市及海岸を眺望と景趣殊に住ち

り、寺は有栖山と号す、十一面千手観音を本尊とて聖徳太子の作に、しに京都清水寺に在しを寛永十七年當堂に安置と云

◎音羽瀑布 オトノハタキ の寺の南、紅葉阪を降る處にあり蓋京都の音羽に因める名なるべし夏日遊客集る避暑に適すと聞く

◎生國魂神社 イククニ (西高津村の北) 北門は南區高津町一番町に鄰る、官幣大社にして生國魂、足國魂の二柱、大物主命を合祀と、此社初め應神天皇の三年に難波崎に祭鎮せしを明應四年本願寺主蓮如上人大阪の御堂の傍に遷坐と其後天正年間織田信長本願寺を攻る時此社兵燹あ焼亡と其十一年に社を今の地に營み遷坐と慶長の初年豊臣秀吉大阪に城さし時大に本社と修造して社領を充て奉る、拜殿、神樂殿、社務所、攝社、末社等あり蓮池の中島に辨天祠あり其南に北

向八幡宮と云あり、境内廣大にして櫻樹多

し、茶店あり、例祭は七月廿八日之を行ふ

舞臺 シヤハイケンガイ 社背懸崖の上に構ふ此處に望遠鏡を

備へ望に應じて見せしむ視瞰すれば大阪市

街眼下あり、萬戸の霓影漸淡く去來の

千帆林なその木津安治の川口なりとす又

山岳烟霧に鎖され糝糊として眠が如きは淡

路播磨なるべし瀨望滿目陶然興窮なし

◎高津神社 カウツ 生國魂神社の真北一丁餘にあ

り、仁徳天皇、應神天皇、仲哀天皇、履仲

天皇、神功皇后、葦原尊の六柱を合せ祀る

往古の境内六町四面なりしと云、方今府社

に列し大阪市二萬餘戸の産土神に坐と、攝

社、末社、神樂殿、神庫、繪馬舎等あり社

地は岡にして西方空を開きで遠隔も富めり

◎高倉稻荷社 高津社の東手にあり參詣常

ふ絶え也

其餘名跡許多あり今此に載せる所の者は其名の尤著る、もの二三に過ぎざると雖行路の難易も注意して省けり看客幸之を諒せよかし

●平野停車場 (大阪府攝津國住吉郡平野郷) 天王寺停車場より南に方る二哩卅三鎖なり

◎平野郷町 は大阪奈良間の新街道に方りて往來頻繁、一小商區なり、大阪市を距る二里廿七町、廣衾は東西五町餘、南北六町餘、戸數一千七百餘、人口七千七百餘、當

町古へ杭全の莊と云嵯峨天皇の御世に阪上廣野磨み此地を賜ひて廣野と呼做せり今平野と云は廣野の訛轉なるべしと云へり

◎平野紡績會社 (停車場の南にあり)

◎大念佛寺 (平野郷町大字平野馬場) 停車場より一町西にあり、融通念佛派の屬を天治二年良忍上人の開基なり後ち嘉元年間

法明上人再興を因て中興の祖と稱す、寺域三千七百餘坪本堂は近郷無双の大殿なり、本尊は天得如來を安置と

◎杭全神社 (全町大字泥堂) 郷社にして素盞鳴命を祭る、貞觀四年の創立、例祭は七月九日より十四日まで之を行ふ、攝社、末社あり

●八尾停車場 (河内國若江郡八尾村大字植松) 平野停車場より二哩五十七鎖

◎八尾村は若江郡中の大村にして八尾外十五ヶ村と併せて八尾村と稱す、戸數一千五百五十、人口六千八百餘、郡役所、裁判出張所等あり、

◎顯證寺 (久寶寺村大字久寶寺) 俗に久寶寺村御堂と稱す、眞宗西本願寺に屬す、文明十一年造立、蓮如、蓮淳の住房たり共に本願寺の主僧あり、親鸞上人眞向の畫像と

五千



てあり蓮如上人の筆をる所にして有名なり  
絶品と稱して信徒の尊信崇敬をる者と聞り  
◎蓮如の松寺内にあり上人手植の松と稱す  
◎含月亭は茶亭なり良如上人造立をる所なりと云

◎勝軍寺 (龍華寺村大字太子堂) 久寶寺村の南十二町許、崇峻天皇御世聖德太子創立又名願成就寺と号す正史に曰、用明天皇二年四月天皇崩し給ひて皇太子なし、守屋は穴穗皇子を立てんと欲す馬子従はを反て皇子と弑し相謀て守屋を殺さんとし守屋が澁川の家へ嚮ふ守屋稻城を築きて之を拒ぎ親ら高に昇て射ること雨の如し而て其軍強盛にして家に填ち野に溢る官軍恐怖して三たび退く後ち官軍兵を進めて戦ふ守屋大に敗績し卒に迹見赤橋の爲め射殺さる云云記して寺号の説明と爲す

◎栢樹 境内にあり、馬子守屋と戦ふ時太子の身殆ど危し時に路傍の栢樹忽然幹を開き太子を匿し卒に恙あさを得たりと傳ふる古跡是なりと云

◎首洗池舊址 門前にあり、守屋の首を洗ひし舊址なりとぞ

◎守屋塚 寺の右に一小丘あり是なりと云  
◎澁川神社 (龍華寺村大字植松) 式内乃神社にして天忍穂耳命、饒速日命を合祀す、俗に澁川天神と稱し當村の産土神に坐す

◎枚岡神社 (枚岡村大字出雲井) 八尾停車場より六十町許東に方る、官幣大社、神武天皇の御世天種子命の創造あして天兒屋根命、比賣神、武甕槌命、經津主命の四柱を祭鎮す

◎大信寺 (八尾村大字大信寺) 俗に八尾御堂と稱す、眞宗東本願寺の末寺なり、教如

上人の造立にして世々門主の支族相繼て住持と

本堂は阿彌陀如來を安と、聖德太子の作と云、親鸞上人の畫像あり世稱して開運の御影と云信徒の尊重とる所たり 寺内に成恩庵鼓樓等あり

●柏原停車場(河内國志紀郡柏原) 八尾停車場より二哩四十七鎖

◎柏原村 は志紀郡の南端、大和川北北岸にあり戸數四百五十、人口二千百餘、奈良及高野街道に方りて往來頻繁あり

◎龜瀨隧道(停車場の南東にあり)は大和川の流域に沿ひ三個の隧道を穿つ其長さも一千四百二十尺、又川を越ゆること三度山水の眺め尤佳あり

◎玉手山安福寺(安宿部郡玉手村大字玉手) 柏原停車場より三十町許南にあり、行基の

開基にして中世廢絶せざるを寛文中淨土宗の珂憶和尚再興と、尾張大納言の菩提所なり 本堂は阿彌陀如來を安と惠心僧都の作と傳ふ

國見ヶ岡、松茸を産と、此邊は眺望絶景の處にして大阪府下第一と稱と、春秋の頃遊客此に集る、境内は清掃にして閑靜なり、門前には洞の瀑布あり

◎天滿宮(志紀郡道明寺村大字道明寺) 柏原停車場より二十五丁南、安福寺より五丁許西、俗に道明寺天神と稱とれども正しくは土師神社と云此地野見宿禰の領地にして社に垂仁天皇の御世創建し、天穗日命を齋祀と其後凡九百五十年を経て村上天皇の天曆九年京都北野に天滿宮を造立とるに當り此土師神社は菅原の遠祖にして殊に菅公左遷せらる、時伯母覺壽尼を道明寺に訪はせし

由緒あるが故に公の靈を北野と同時に此社に合祀し改めて道明寺天満宮と号せしなり  
 今土師神社と稱せれども猶舊慣に因て、正一位太政大威徳天神の額を鳥居に掲げたり  
 ◎常成梅 は社務所の門内にあり、常に梅實と結ぶ奇観なり、境内淨潔にして梅樹多し花候には殊に絶佳なり

◎譽田神社 (古市村大字譽田) 土師神社より六町許南にあり欽明天皇の御世創造にして其後冷泉天皇の御世に至り今の地に遷して大に修營を加ふ、本殿には應神天皇を祭り仲哀天皇、表筒男命、中筒男命、底筒男命、神功皇后、八后神を合祀せ、俗に譽田八幡宮と稱し源頼朝始め諸將軍相繼て神領を寄附せらる、社地廣大にして大社あり今府社に列し五月祭典を行ふ本村より車樂を出る甚盛なり、因云譽田をコンダと云は訛傳にし

てホムダと訓む方正からん慣習の久き茲に至て改むると得す

◎應神天皇惠我藻伏岡陵 (古市郡譽田村) 譽田神社より六丁許北にあり兆域周圍千五百十六間

◎葛井寺 (長野村大字葛井) 應神天皇御陵より九丁許北、柏原停車場より三十丁許南西に方る、初め剛琳寺と云行基僧正の開基にして西國三十三所五番の札所なり、平城天皇の勅に依り阿保親王再興し給ふと云、一説よは葛井安元と云人佛徳に感じて再興せり因て葛井寺と云と云へり、宗旨は眞言にして本堂には千手觀音を安置と長四尺八寸、稽文會、稽主勳の作と傳ふ脇侍は正觀音地藏にして並に行基の作と云り、境内反別千百七十五坪を有し西面には二王門あり菩薩堂不動堂等ありて參詣常ふ絶ゆること

なし二王門前ナホには旅亭茶店等あり  
此他名所古跡ナホ尙あれども略リヤクと是より柏原停車場モトに戻り王寺停車場に下車とべし

●王寺停車場 (大和國葛下郡王寺村大字王寺) 柏原停車場より六哩

本驛は奈良線と櫻井線との分岐ブンキする處なれば下田、高田、畝火、櫻井等の各驛にて下車せんとするものは此處ココにて乗り替カゆべし但し奈良行ナラきは本線なれば乗り替カるに及およば

◎王寺村 は大和川の東に位する片岡山下にありて戸數三百五十許を有する寒村サムイありしも鐵道開通して和や繁盛の域に進めり

◎達磨寺 (王寺村大字王子) 王寺停車場を距る八丁南に方る片岡山下にあり、聖徳太子創造にして片岡山と號し有名なる伽藍たりしも永祿年松永久秀の兵燹に罹り焼亡し

大に衰微スヒレと雖古跡尙存ナホソンと、本堂 達磨大

師木像を安と聖徳太子の作と云ふ、釋書シヤクシヨに云、推古天皇の二十一年十二月朔日聖徳太子片岡を巡りて一飢者の路傍に臥せるを憐

み衣食を給して宮に歸り後ち人ツカと遣はし之を看せしれば飢者既に歿シと仍て茲ココに葬る太子侍臣ツシ又語て曰彼の飢者は凡人にあらざ必

ぞ真人ならんとて其墳ハカを開かしむれば屍骨シノコ既に空し唯衣服棺上ムナにありのみ是コレに於て謂へらく彼の飢者は必カナラ達磨の化身ならんと乃其墓を呼ナハチソンて達磨墳と號カと後ち傍カマハラに堂宇を構へて達磨寺と云是あり

三重塔 寺内にあり之を達磨塚と云、片岡春利墓及松永久秀墓等あり

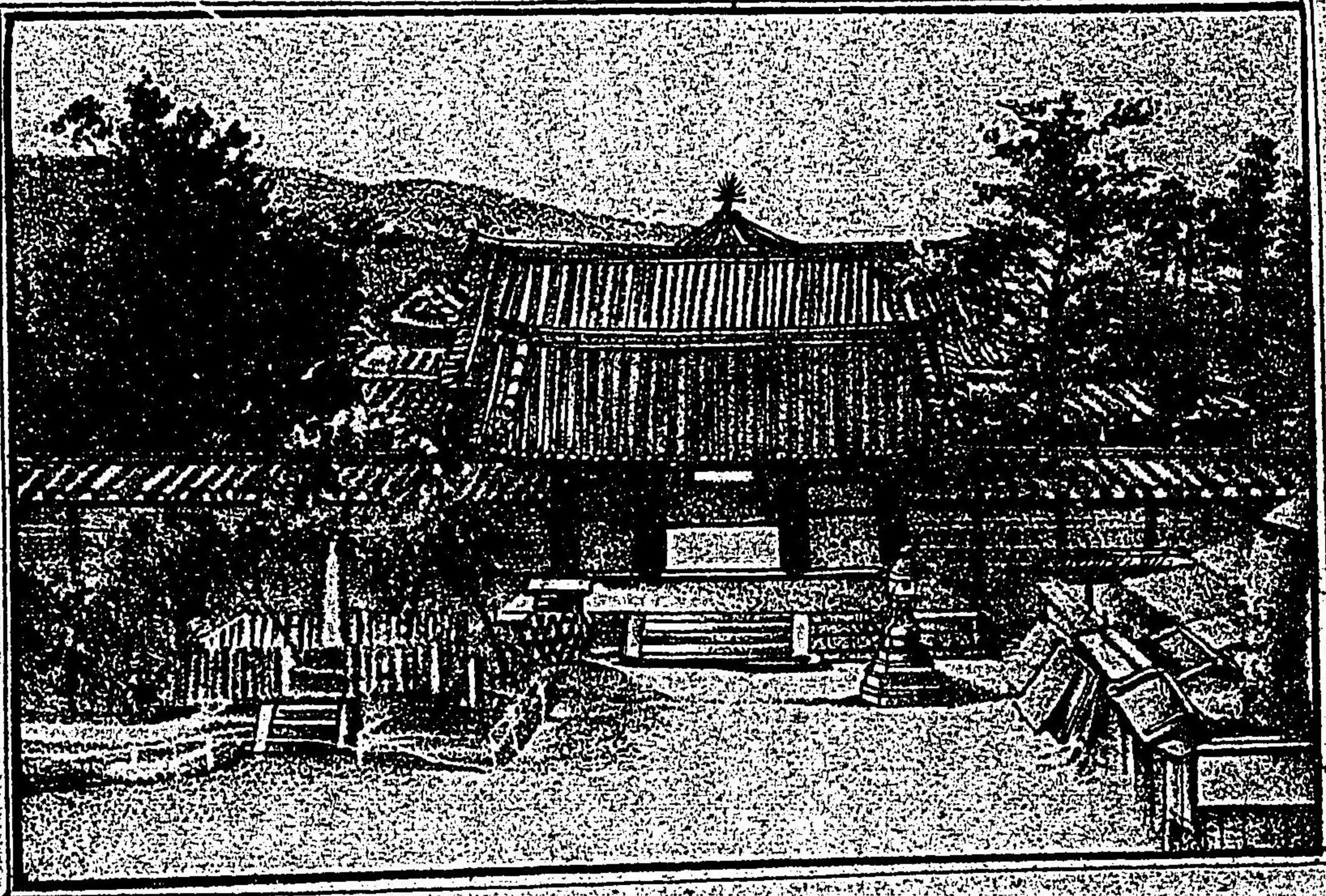
◎孝靈天皇片岡馬阪上御陵 兆域周圍百三十六間三尺五寸南面達磨寺の西にあり

◎朝護孫子寺 (平群郡明治村大字信貴畑)

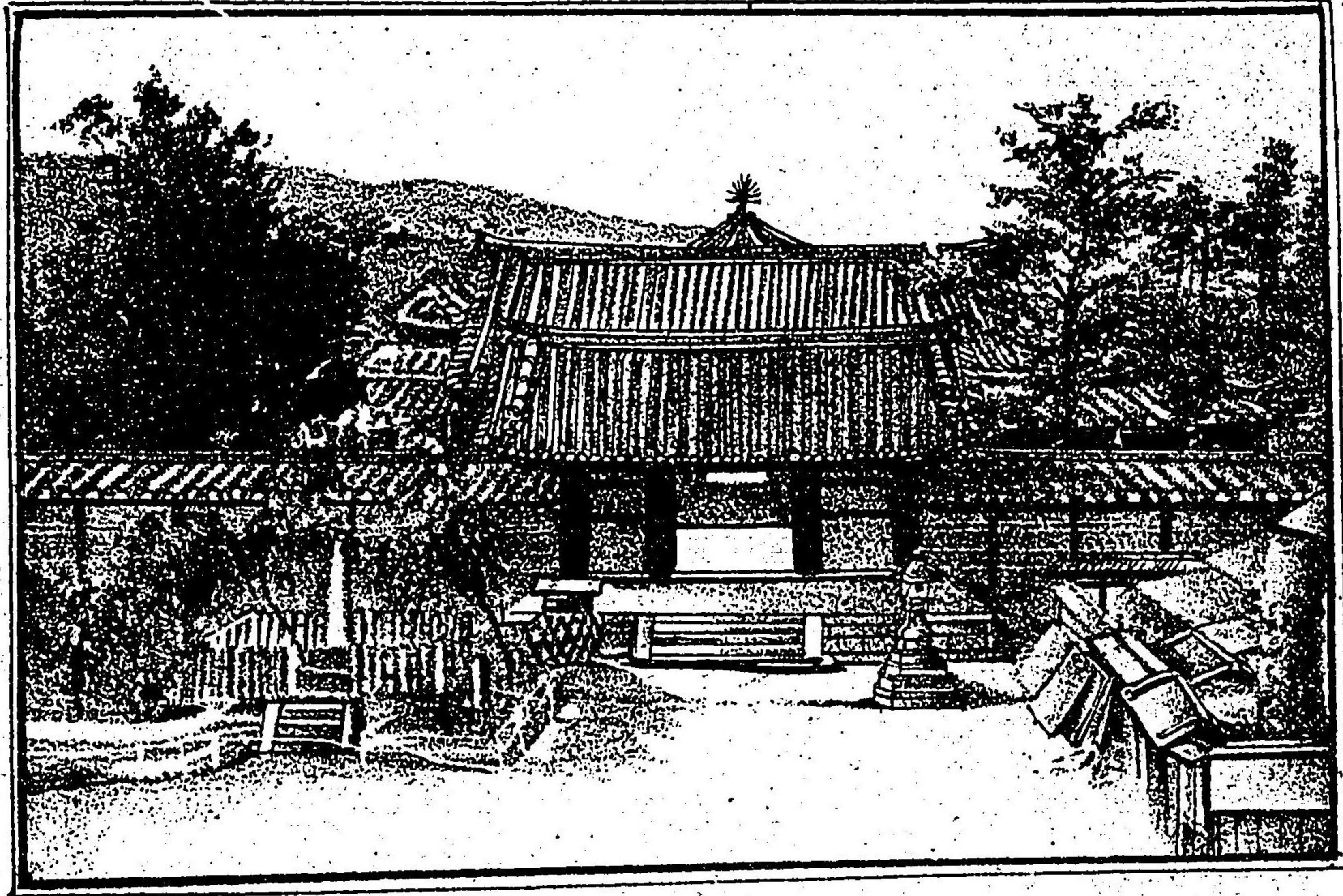
王寺停車場より東門まで三十三丁、山麓の  
 勢野村より登る廿八丁、町毎お石標を立つ  
 本堂は信貴山上に在り南面せり南に二上葛  
 城金剛諸山を眺め東に法隆寺諸方を望む風  
 光多趣也本尊毘沙門天立像木彫長三尺八寸  
 聖徳太子の作にして秘佛なり寺は聖徳太子  
 の草創に係り延喜年中命蓮上人後醍醐天皇  
 の御惱を祈念と時に帝快癒し給ふに及て御  
 歸依ありて地領及坊舎を寄附し給ふ亦勅し  
 て朝護孫子寺と賜ふ元龜天正の頃松永久秀  
 當山に城さしとゞき地領を寄附せ堂舎を修營  
 と天正五年秀吉と戦ひ久秀敗軍と此時兵燹  
 の餘炎に罹て焼亡と後ち秀頼亦之を再營し  
 て今に至ると云

◎龍田神社（平群郡三郷村大字立野）信貴  
 山より下二十餘丁南東にあり、崇神天皇七  
 年鎮坐にして官幣大社に列す、明治十六年

法隆寺東院 The Eastern Hall of the Horyuji Temple.



法隆寺東院 The Eastern Hall of the Horyuji Temple.



王寺停車場より東門まで三十三丁、山麓の  
 勢野村より登る廿八丁、町毎石標を立つ  
 本堂は信貴山上に在り南面せり南に二上葛  
 城金剛諸山を眺め東に法隆寺諸方を望む風  
 光多趣也本尊毘沙門天立像木彫長三尺八寸  
 聖德太子の作にして秘佛なり寺は聖德太子  
 の草創に係り延喜年中命蓮上人後醍醐天皇  
 の御惱を祈念す時に帝快癒し給ふに及て御  
 歸依ありて地領及坊舎を寄附し給ふ亦勅し  
 て朝護孫子寺と賜ふ元龜天正の頃松永久秀  
 當山に城を築きしとき地領を寄附せ堂舎を修營  
 して天正五年秀吉と戦ひ久秀敗軍と此時兵燹  
 の餘炎に罹て焼亡と後ち秀頼亦之を再營し  
 て今に至ると云

◎龍田神社 (平群郡三郷村大字立野) 信貴  
 山より下二十餘丁南東にあり、崇神天皇七  
 年鎮坐にして官幣大社に列す、明治十六年

の改造にして本殿は東面し南殿には天御柱アマノミハシラ

命北殿は國御柱命を奉祀ホウシと、社地一万二千

◎五十七坪、喬木蔚然として社背を圍繞カウボクウツセンと

社前櫻楓を栽植し淨潔にして森嚴なりサイシヨク シヤウケツ シンケン

●法隆寺停車場（平群郡富郷村大字興留）

王寺停車場より四哩二十三鎖

◎法隆寺村 は平群郡ヘグリコホリの南端に位し、堺、

奈良間、大阪奈良間の街道に方り西は龍田リウテン

町へ八町東は小泉へ十八町を隔つ、戸數五

百七十戸、人口二千百九十人、停車場は村

の南端八九丁許にあり

◎法隆寺（平群郡法隆寺村大字法隆寺）停

車場より南門まで十二丁餘、班鳩山イカルガシと号と

法相宗の本山にして南都七大寺の一あり、推

古天皇元年聖徳太子創建にして千三百年間

其舊形を更めざる天下未曾有の古刹なりと

と、疆域キヤウイキの四万三千七百二十六坪、但し東

西兩院を合したる坪數なり、西院は南門より中門を入り、金堂、五層塔、講堂、經藏鐘樓、上御堂、西圓堂、地藏堂、三經院、西室、聖靈院、東室、一切經藏、食堂、網封藏、護摩堂、聖天堂、十二天堂、等を巡回して東大門を出て東院に至る

◎東院は上宮王院と號し聖德太子班鳩宮の舊址なり聖武天皇天平十一年改めて寺とし給ふ夢殿は太子禪定を修し給ひし處なり武殿院、舍利殿、傳法堂、鐘樓、一切經輪藏、禮堂、律學院等なり其規模宏大にして莊嚴華麗あるは言を俟たむ太子創立の儘管て祝融の災に罹らざるが故より上古の器物靈殿寶閣に充滿して益を史家美術家より興ふる鮮少ならず如斯名利は天下に其比なし詳しくは鳥居氏の編せる全寺巡拜記及大和名所記に盡したれば茲に贅せむ

◎法輪寺 (平群郡富郷村大字三井) 法隆寺

より北東六丁許、推古天皇廿一年聖德太子本尊及一堂を造刻し傍に井を穿ち以て寺號となす三井又は御井寺と云太子薨去後山背大兄王に伽藍造立の事を遺命し給ふ王子命を奉じて七堂伽藍造立し給ふ年序を經るに及て今甚衰微と然れども三層塔、妙見堂、鐘樓等は創立の儘にして安置佛も其儘なり本堂金堂の二字は再建なれども佛像は何れも千歳の傑作なり

◎法起寺 (平群郡富郷村大字岡本) 法輪寺

より六丁許東、推古天皇十四年聖德太子の別宮岡本宮と改め官寺とをし給ふ、三層塔は創立の儘にして本堂、聖堂、持佛堂、鎮守堂、鐘樓等は再建あり什物には佛像書畫の名品多し

◎廣瀨神社 (廣瀨郡河合村大字川合) 法隆



寺停車場より南東十三丁許神社は廣瀬川曲の森にあり、境域七千九十三坪、白鳳四年四月鎮坐、本殿は南面し、和加宇加能賣神を祭る、官幣大社にして四月四日祭典を行ふ是を大忌の祭と云、本殿は正徳年間の改造よして拜殿は明治廿七年新造に係る、神饌所、勅使殿、神庫、繪馬舎、祭器庫、社務所等本殿の左右に羅列し、蒼樹陰森社後に繞り淨潔にして整肅たり

●郡山停車場 (添下郡郡山町大字高田) 法隆寺停車場より四哩二十三鎖

◎郡山町は舊柳澤氏の城下にして、市坊六十五、戸數三千四百、人口一萬二千七百餘奈良の西南に位し距離二里十二町、肆店櫛比し、物貨全く備はる、國內第二の都會にして其繁華は奈良に亞く、郵便電信局、警察署、裁判所出張所、縣立尋常中學校、第

六十八銀行、紡績會社等あり近傍には神社佛閣及名所古跡最多し

◎藥園八幡神社 (郡山町大字材木) 社地分別四百卅餘坪にして本殿には應神天皇神功皇后を合祀と、初め此社域内みわしを後ち此に移せり其舊地は古への藥園宮にして天平勝寶元年十一月大嘗會を行はせられし所なり

◎郡山城址 (郡山町大字南郡山) 永祿年間小田切春次の築く所にして天正十三年豊臣秀吉、弟秀長と之に對し秀長乃ち城を高らし湟を深らし以て大阪城を藩屏と十九年四月秀長卒と其子秀俊嗣く文祿四年秀俊夭死し嗣なくして國除かれ是より以降屢變動ありて享保九年に至て柳澤吉里を甲斐より茲に封せ以後柳澤氏世襲して明治廢藩の時み至る

◎柳澤神社（郡山町大字南郡山）城址本丸に在りクラウキシンケン宏規森嚴明治十三年の創建にして、柳津吉保公ヨシヤスと祀る、公は甲斐の國主にして嘗て將軍綱吉公ツカに仕へ老中ニシに任せられ頗る仁政を施し功績最多し其執政中諸國の帝陵を修築し又細井廣澤ホシヰ萩生徂徠等ソライの名士を招聘せられしは世の感賞カンシヨウとる所なり

◎植槻神社（郡山町大字北郡山）神社は字植槻筋と云に在り、境内四百七十四坪、貞觀元年宇佐八幡宮を山城の男山オノヤマに分遷ブンセンの時又此社コノミヤに分祀ブンシしたるありと云

◎羅城門古址 郡山町大字鍛冶の東三丁許ワシヤモノ 小在り俗コトにライシヨと呼スナハふ即ち來世墓ライセイハカの地是其古趾コシありと傳ツタふ蓋來世は羅城の訛傳クワヂンにして平城朝ナラフチウの羅城門ラウヤウモンありし所なりと云坪割の地圖チホウに克コトく當アれり其規模キモの宏大クラウダイ以て概見ガイケンとるに足タルる、因云羅城チナミニイフラヤウとは外廓クワイクワクの意イありと

諸書に録せり

◎金剛山寺（添下郡矢田村大字矢田）郡山町の西端アヤナヤマ字矢田口グチより三十町西チヨククンにあり、一又矢田寺ヤタデと云ふ眞言宗チヨククンにして白鳳二年勅願チヨククンに依り智通僧正チツツソウジウの開基カイキとる所なり後ち持統天皇の御世ミチツに及ガて伽藍ガラン増築ゾウシクし給ふ本堂は地藏山腹サンブクに在サて東面トウメンし本尊地藏菩薩立像サツゾウ脇士觀音吉祥カンオンキョウの二像等ニゾウを安置アンジと皆傑作ミナクツサクなり、境内は八千五百四十餘坪にして菩薩堂、開山堂、觀音堂、念佛堂、煇魔堂、舍利堂、鐘樓等ネなり塔中トウチュウは念佛院、南僧坊、北僧坊、大門坊カドノマの四院存ヨンインと懇望コンバウに依ヨリては宿泊シュクバクとるを得エべし

◎松尾寺（矢田村大字山田）金剛山寺の南に方マる山路十八丁、是より郡山停車場、五十丁、補陀落山フタトラスンと号ナヅケし松尾山腰マツオノヤマに在り養老二年舍人親王シヤノヒコノサマの創立、或云、僧永業エイゲツの開基カイキと

る所にして本尊千手観音立像ハ親王の作と傳ふ傑作なり境内一千七百九十三坪よして三層塔、行者堂、大黒堂等あり（是より郡山町へ戻るべし）

◎八幡神社（都跡村大字西京）薬師寺南門の南、休息岡にあり、社地千五百餘坪、應神天皇、神功皇后、仲比賣命を合祀と、貞觀元年行教和尚大安寺境内より此に祭鎮す其後豊臣秀吉大に之を修造と云へり

◎薬師寺（添下郡都跡村大字西京）郡山町より正北お方る平路十五町、法相宗にして南都七大寺の一なり、白鳳九年高市郡に草創せらる皇后の御病を祈らんが爲なり養老二年右京二坊お轉徙と即ち今の地なり宏崇華麗の伽藍たりしと雖數回の祝融に遇ひて衰微と然れども古態尙存せり◎金堂は延寶二年の再造おして本尊金銅薬師坐像、九尺

脇土金銅日光月光、長各一丈二尺五寸の三像は白鳳九年の鑄造にして技術の精美なる其比を天下に見ざる所と云、佛壇の大理石は長九間、巾二間、高一尺八寸、養老年中百濟貢獻する所に係る世に瑪瑙石の佛壇と稱と◎講堂は文化二年再建、本尊金銅薬師坐像九尺、脇土金銅日光月光長各九尺五寸、此三佛は白鳳九年高市郡岡本に於て造りし元薬師寺の本尊よして今金堂に安置る所の者は元明天皇行基僧正お勅して佛足石と撰範とし重鑄せるなりと一書お載と◎東院堂は養老五年創立の儘と傳ふ、本尊聖観音立像は閻浮檀金にして養老年間百濟國王の貢獻する所と云ふ妙技傑作なり◎六層塔は高さ十一丈五尺、方五間、聖武天皇の御願に因て天平二年建立、九輪銅柱に銘あり舎人親王の題書と云◎佛足堂の碑石は有名

る所にして本尊千手観音立像ハ親王の作と  
傳ふ傑作なり境内一千七百九十三坪よして  
三層塔、行者堂、大黒堂等あり（是より郡  
山町へ戻るべし）

◎八幡神社（都跡村大字西京）薬師寺南門  
の南、休息岡にあり、社地千五百餘坪、應  
神天皇、神功皇后、仲比賣命を合祀と、貞觀  
元年行教和尚大安寺境内より此に祭鎮す其  
後豊臣秀吉大に之を修造と云へり

◎薬師寺（添下郡都跡村大字西京）郡山町  
より正北方る平路十五町、法相宗にして  
南都七大寺の一なり、白鳳九年高市郡に草  
創せらる皇后の御病を祈らんが爲なり養老  
二年右京二坊お轉徙と即ち今の地なり宏崇  
華麗の伽藍たりしと雖數回の祝融に遇ひて  
衰微と然れども古態尙存せり○金堂は延寶  
二年の再造おして本尊金銅薬師坐像、九尺

脇土金銅日光月光、長各一丈一尺五寸の三  
像は白鳳九年の鑄造にして技術の精美なる  
其比を天下に見ざる所と云、佛壇の大理石  
は長九間、巾二間、高一尺八寸、養老年中  
百濟貢獻とる所に係る世に瑪瑙石の佛壇と  
稱と○講堂は文化二年再建、本尊金銅薬  
師坐像九尺、脇土金銅日光月光長各九尺五  
寸、此三佛は白鳳九年高市郡岡本に於て造  
りし元薬師寺の本尊よして今金堂に安坐る  
所の者は元明天皇行基僧正お勅して佛足石  
と摸範とし重鑄せるなりと一書お載と○東  
院堂は養老五年創立の儘と傳ふ、本尊聖觀  
音立像は閻浮檀金にして養老年間百濟國王  
の貢獻とる所と云ふ妙技傑作なり○六層塔  
は高さ十一丈五尺、方五間、聖武天皇の御  
願に因て天平二年建立、九輪銅柱に銘あり  
舍人親王の題書と云○佛足堂の碑石は有名

なり其他堂宇二三あり寶物には逸品多し法會には追儼式あり殊に名高き寺域は一萬三千四十餘坪を有と

◎赤眉山陶器 (都跡村大字五條) 藥師寺北門前を西へ行く凡二十町許、享保の末年郡山城主柳澤吉里公京師の陶工仁清を招聘して陶窯を再興せらる其器精巧にして茶家の尤賞玩する所なり今衰頽して土俵行平の雜品を製するに過ぎと

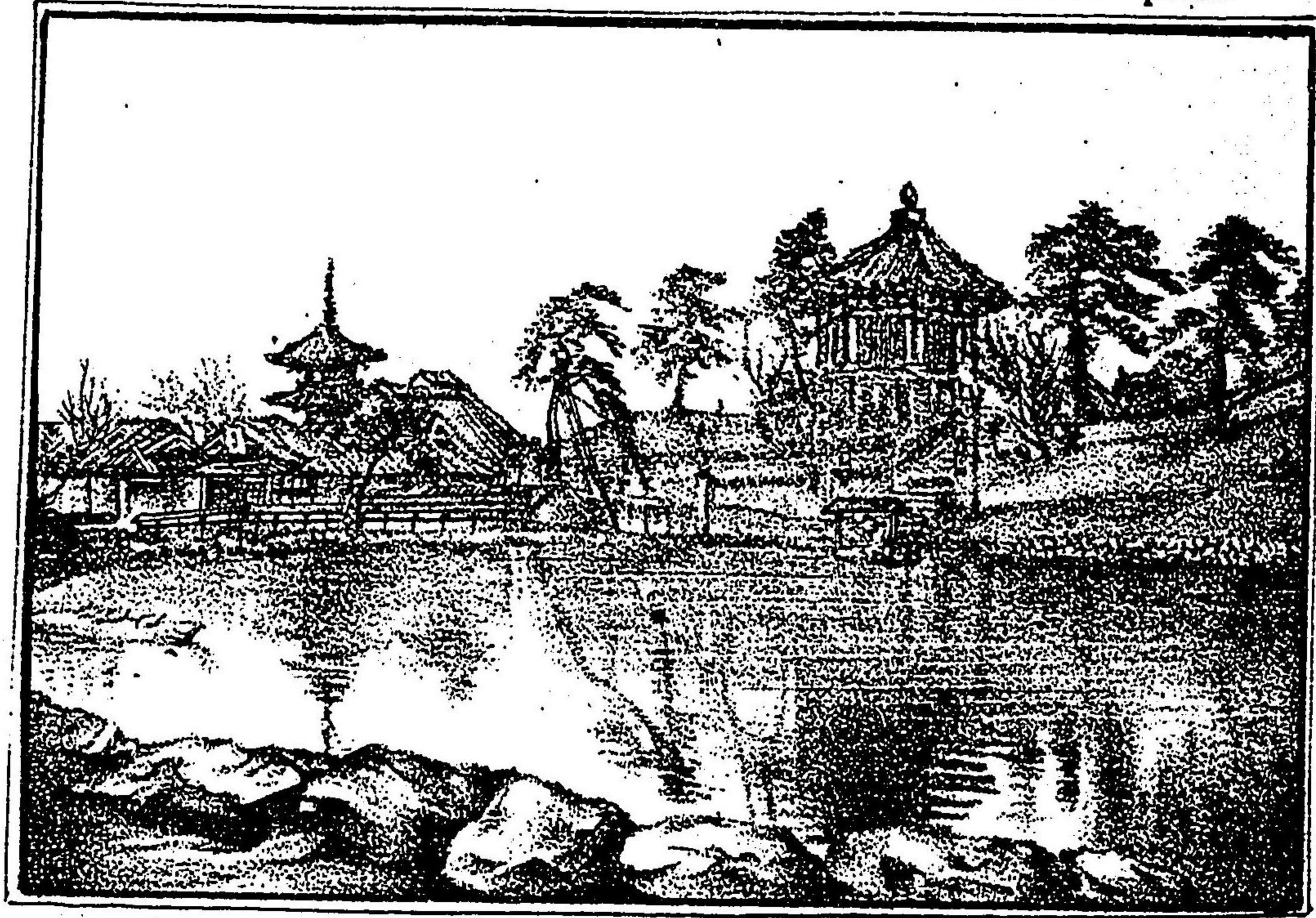
◎唐招提寺 (都跡村大字五條) 藥師寺北門より正北に方る五丁許、一名龍興寺又建初律寺と号と、律宗にして南都七大寺の一あり、境内一萬千四百餘坪、聖武孝謙兩帝の勅願天平勝寶八歲創立にして唐僧鑑真大和尚の開基とる所、中興は覺盛和尚たり○金堂は唐僧如寶の建る所にして創立の儘あり本尊盧舍那佛坐像は乾漆造長八尺、唐僧

思託の作る所、脇土千手觀音立像、是も乾漆とて一丈八尺傳はて天人作と云、藥師如来立像亦乾漆、長一丈一尺五寸如寶の作と云當堂の安置佛は孰れも傑作あり(講堂は天平寶字三年平城朝の朝集殿を轉徙せるものにて鑑真和尚戒律を講せし所たり本尊彌勒菩薩坐像は乾漆造長八尺唐人軍法刀作持國多聞の二天も全質全作なり○東室は天平寶字三年創立の儘にして名作佛像多し○校倉、鼓樓共に天平勝寶八歲創造の儘あり其他二三の堂宇あれども皆再造に係る什物には天平年間書畫佛器の名品多と

◎垂仁天皇菅原伏見東陵 (伏見村大字齋音寺) 唐招提寺を距る六丁許北に方る、兆域周圍五百五十八間四分、南面東表

◎喜光寺 (伏見村大字菅原) 垂仁天皇御陵より六丁許北に方る、一に菅原寺と稱を靈

猿澤池の四邊 General View About Sarusawa-pond.



龜元年行基僧正の創立セリツクせる所ヲあして一説には奈良の大佛殿試作シサクの爲ニあ造る所と云行基此寺に死シせし事釋書ニあ見へたり

◎菅原神社（全村）喜光寺の北に接ヒツせ、道實公ミチノサチを祀る社殿南面し淨潔シヤウケンにして梅樹境内ニに圍繞ニて賽者常ニに間斷カンダンなし

◎菅原第址（全村）神社の前通二丁東を北へ入る數歩スホにして小池あり其中島ニあ碑石立

つ是也光仁天皇の御世菅原の氏祖ウヂノソトなる土師宿禰ツチノシ古人同道長等の居住せられし所にして

其氏名の據ヨリて起る所ナリなり世俗には道實公の誕生地タマシヅメなりと云へり

是より西北に名刹多し然れとも一先郡山停車場マエノサツオホにヒトイフ戻り瀧車タギクルマにて奈良へ行き、奈良の名

所古跡を一巡して後ち市外西邊を順覽するを宜ヨソとす

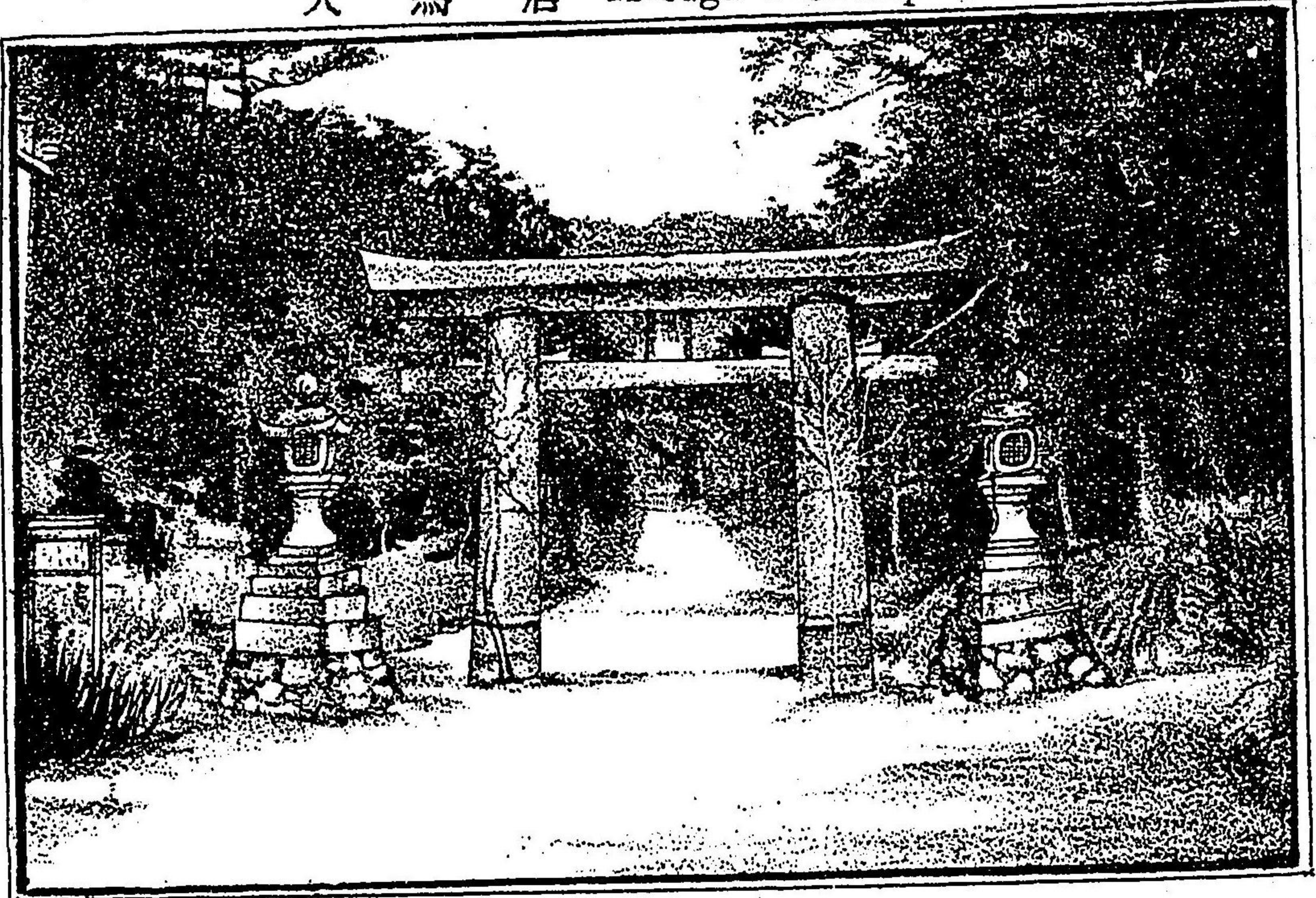
●奈良停車場（奈良町大字下三條）奈良町

の西端にあり郡山停車場より二哩七十四鎖  
湊町より二十五哩三十七鎖、一日十一回發  
着と

◎奈良町 ソホカミン は添上郡の西北に位し國の北部  
にあり市坊シバウ一百四十七、戸數五千、人口二萬  
六千餘、商賈シヤウカンキ軒列ツチね車馬輻湊し國內第一  
の都會にして縣廳所在地たり古イニシへ開化天皇  
ニラフキヨ皇居の地にして後ち平城ナラナ、ナラ七朝の皇都たり故  
に市内の神社佛寺の建築及其什物は當世の  
所製にして日本固有の美術ビビニツたりとて史家美  
術家の嘆賞タシキヨウする所あり當停車場カウアン阪田購文  
堂ミツの出店あり此にて便宜ベンヤの書冊を求めらる  
べし本書は紙數に制限あれば唯其大要を摘  
録ロクして順路案内キヤウに供キヤウするのみ

◎春日率川阪上陵カスガノイザカハサカノウヘミハカ（三條町中ほど）第九開  
化天皇御陵ミヤヤキ是あり宮址ミヤノアトは高島町字宮の上と  
云是なるべし

大鳥居 Kasuga's Greatportal.



◎<sup>イサカハニマスオホミツノミコト</sup>率川坐大神御子神社 (子守町あり) 姫<sup>ヒメ</sup>  
<sup>スミタラ</sup>踏躑五十鈴姫命玉櫛姫命狹井神の三柱を祭<sup>マツ</sup>  
<sup>スヰコ</sup>る推古天皇御世始て造立由緒正しき神社  
 なり

◎橋本町 札の辻と稱る處は奈良町の中央<sup>チウワウ</sup>  
 よして國道里程を定むる元標のある處也

◎<sup>サルサハ</sup>猿澤池 (元標壹丁余東) 月の名所八景の  
 一あり此池鯉多し手を敲けば龜鼈先を争て<sup>サキ</sup>  
<sup>ミツキハ</sup>水涯に溱る一奇觀なり

◎<sup>ウチメノ</sup>采女社 (池の西畔) さる澤池み身を投し  
 采女某の靈を祀と云<sup>レイ</sup>

◎<sup>キヌカケヤナギ</sup>衣掛柳 (池の東畔) 采女投身の時衣を掛  
 しと云

◎<sup>イサカハ</sup>率川 (池の南を流る) 古より其名あり  
<sup>アライケ</sup>◎荒池 (猿澤池東) 明治廿二年此堤を築く<sup>ツツミ</sup>

◎<sup>オホミ</sup>大御堂 (大鳥居前) 十三鐘と呼ぶ聖武天  
<sup>ムリヤウツチノクワンオン</sup>皇御世造立、無量壽佛兒觀音を安き石子詰<sup>イシゴ</sup>



の處刑據マヨクイヨリトコロなるとも古跡コセキは此コノなり

◎大鳥居オホトリイ（大御堂前オホミツノマエの東）春日社カスガノヤシロの一鳥居なり

◎淺茅原遊園アサチノハラノイウエン（鳥居トリイの南）珍亭チンテイガ雅席ヤシキスウ數字ジスウあり景趣カスガノ最佳オモイキセツトセカなり

◎春日野カスガノ（鳥居トリイより東をいふ）神鹿シカ多し名所ナカの一なり此邊コノヘナガメ眺矚ナカメよし

◎馬出橋ウマデシノ（鳥居トリイの東）春日若宮祭カスガノワカミヤマツリの夜矢鏑ヨヤンサメ式シキに射手シヤテの兒チコ此橋コノハシより馬ウマを駈出カケイダスに由ユて此名あり

◎御旅所ミツリ（馬出橋ウマデシノの東北）祭典マツリの時トキ神カミ殿ノミヤを構カマヘて春日若宮カスガノワカミヤを遷坐ウツツ坐マ奉ホウる所トコロなり

◎雪消澤ユキヤシノヤハ（同所東四辻シツチ南）  
◎車舍クルマノヤ（雪消澤ユキヤシノヤハの北通三丁キツサウ余東）貴族社キゾクシヤサン參マシの時御車ミツリノクルマを置く所トコロなり

◎二鳥居ニトリイ（同所）

◎祓戸神社ハラヒノ（同所）瀬織津姫命セオリヒメノミコトを祭マツる大宮

祭の時勅使解除の式と行せらる社なり

◎神垣森 (祓戸社のうしろ也)

◎劍先道 (社のまへ)

◎燈爐 の總數は二千八百六十八基と記録に見ゆ

◎着到殿 (祓戸社一丁東) 祭典の勅使着到し給ふ所なり

◎白藤瀑布 (同所の南) 避暑に宜し

◎春日神社 (大宮廻廊の外) 一に榎本社と云猿田彦大神を祭る春日社地主神なるが故に大宮造營の時此社を先着ふ造り替る例なり

◎春日若宮 (大宮の南) 天押雲命を祭る長保五年三月三日大宮の二三神殿の間に現れ給ふ乃三の神殿を合祀後百三十二年を経て長承四年此を祭鎮し若宮と稱し奉る

◎手水屋 (若宮の南) 大國主ノ神須勢理比賣

命を祭る

◎御間橋 (若宮の北大宮の南) 一に布生橋と云道の左右に駢列を御間の燈爐と云

◎南門 (大宮の前) 諸門最初は鳥居にて廻廊も亦瑞籬ありしを治承二年今の如く改め造る

◎樓門 官幣大社春日神社是なり俗に大宮と云若宮を對してなり樓門の奥に神殿あり東第一殿は武甕槌神 (鹿島大神) 第二殿經津主神 (香取大神) 第三殿天兒屋根命 (枚岡大神) 第四殿比賣神 (枚岡后神) の四柱を祭る此社は神護景雲二年創立神社の柱椽に丹塗を施す事此に始る祭典は嘉祥三年九月始て行ふ貞觀元年以來春二月冬十一月並に上申日を式日と定らる世に申祭と稱す造營は慶長十七年より廿一年毎に之を營む

◎幣殿ヘイデン（同所林檎庭の南側）奉幣所ホウヘイショなり又舞殿マヒデンと云

◎直會殿ナホラヒツチ（同所の西）祭典儀式執行所又八間殿カウヂンと云

◎内侍門ナイン（大宮西廻廊北の端）

◎春日現境内ハルノヒ は八十五町七段餘あり記事尤多し紙幅限あれば洩モラシつ

◎水谷神社ミツヤ（内侍門二丁北）素盞鳴命スサノヒメ大己貴命オホナムチ奇稻田姫命クシノイナメヒメを合祀古來水谷神樂能アハセマツルコライミツヤノカグラノウシヨウと稱するは此社にてありしあり

◎水谷川ミツヤガハ（社の背後）春日山に發ハツと下流と吉城川ヨシキと云

◎氷室舊址ヒムロンノアト（水谷川上）

◎春日山周圍カスガ二里二町（或云二里廿丁）高凡三千尺五峯あり曰三笠イハクミカサ（浮雲又本宮云）曰高峯タカミネ（或云三社の峯）曰長尾（亦云水谷の峯）曰勿買ハガヒ（一云花山）曰香山カウセン（一云髮生）

◎若草山ワカクサ（三笠山の北鄰）一に九折又葛岡ツハラオリツツラチカ形三層なるか故に誤アヤマツて三笠山と呼ヨふ此山興福寺東大寺の境界ケイカイにあり所屬シヨゾクの争アラソヒより去ツキて遂ツキに焼拂ヤキハラふこととなる今尙然ツキり

◎鷲陵ウグヒスツカ（若草山頂）裡面リメンみ平城阪上墓アヤマリとあるは誤アヤマリなり

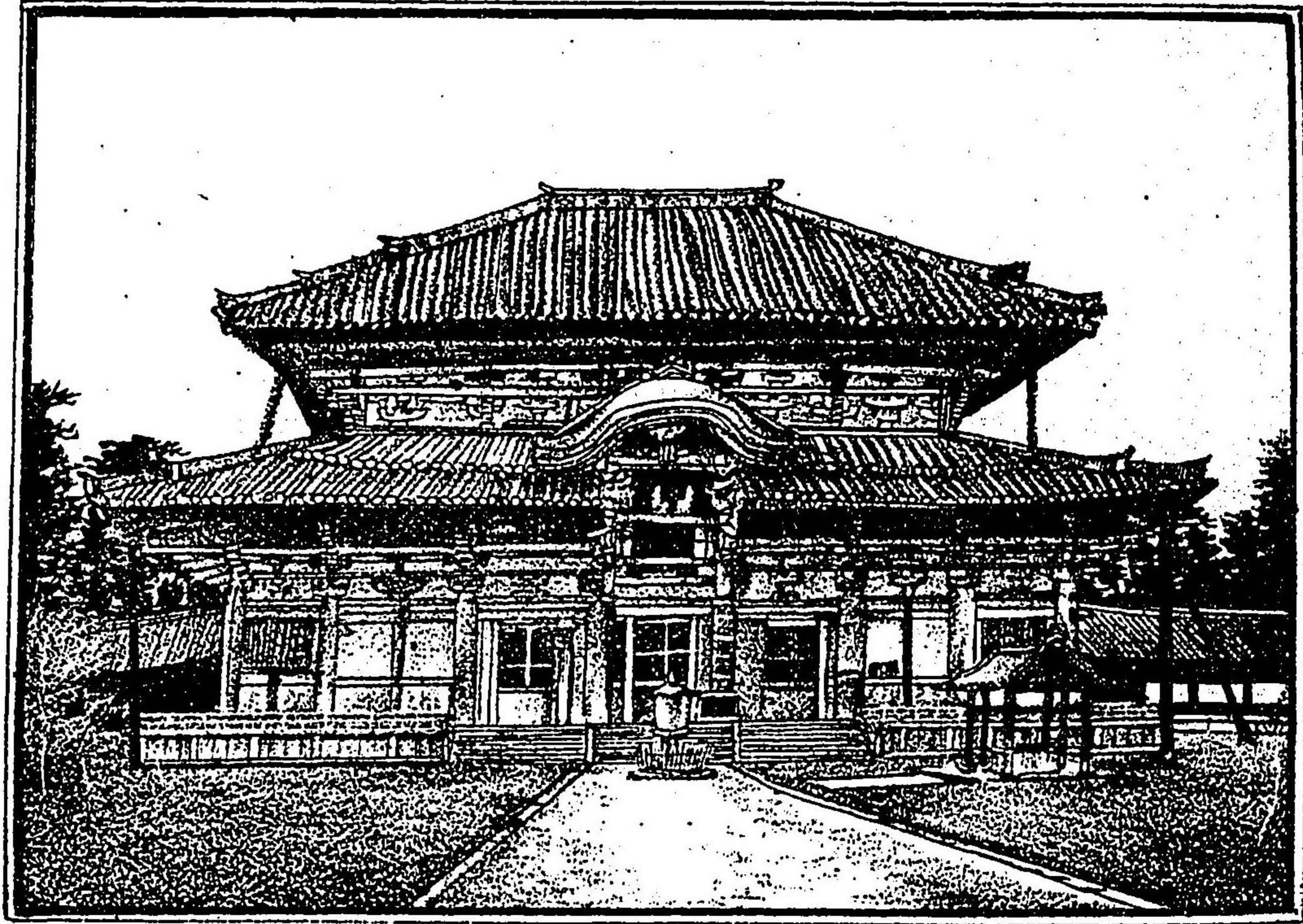
◎手向山テムケ（若草山の北鄰）紅葉の名所なり

◎手向山神社テムケ（若草山一丁北）の若宮は仁德天皇を祭る

◎大宮オウヤム は中殿應神天皇南殿オウヤム土依姫北殿チウ仲哀天皇神功皇后アハを祭る天平勝寶元年アハ豊前アハ比宇佐ナラニミヤコより平城都ムカに迎へ奉り神封シンホウ千四百戸位田アチタマツ百四十町充奉ケンチャウらる建長二年ホウチウトキヨリ北條時頼ホウチウトキヨリ此地ウツシマツルに遷奉例祭は十月五日今縣社ウツシマツルに列ウツシマツルと

◎三月堂ヒヤウ（手向山社の北）法華堂ハウケと號メウと天平五年ヒヤウ造立本尊ホソン不空絹索觀音フクウクワン脇ワキ土梵ツチバン天帝釋テンテイシヤク此堂ヒシニツコウケイに佛像多ナ去ホ皆美術工藝ナの模範ホとなるも

大佛殿 The Hall of Great Buddha.



のなり

◎千手観音像 (同所) 執金剛神像 (堂の背後) 有名なり此堂は創立の儘なりと云ふ

◎二月堂 (三月堂の右手) 天平勝寶四年創立本尊十一面観音なり小観音と云は開山實

忠和尙浪速の浦に此像を得て始て兜率軌を修と是を噤陀行法と云修二會と稱と三月一日より二七日之を行ふ大松明水取と稱とる

ものはなり

◎若狭井 (堂下) 行法の初夜實忠和尙祈念して若狭國より水を求めしとなり今其十二日の夜に此井より水と汲揚て香水よ用ふ

◎良辨杉 (堂下) 良辨の鷲に育られしと云へる古跡は此にはあらじ

◎開山堂 (二月堂下) 寛仁三年創立良辨僧正實忠和尙の木像を安せ

◎三昧堂 (開山堂鄰) 俗に四月堂と云彌陀

三尊ソソを安置トモと共にシウサク妙作ナリなり此堂ガアシは治安元年始イマンダウて立キつ現堂ナリは再造ナリ

◎念佛堂チンブツダウ（鐘堂カネダウの前マエ）地藏坐像ヂヤウザザウの名作ナリなりシユンシヨウシャウニシツクル俊乘ケンキウ上人ナリ作此堂ナリは建久年立キつ

◎淨土堂ソウヂョウダウ（鐘堂カネダウの北キタ）本尊ホンソン彌陀坐像ミダザウ此堂コノダウは寶永元年建タマシ

◎鐘堂カネダウ 其名ナリ高タカき東大寺カチコレナリテンヒヤウシウヨの鐘カネ是ナリ也ナリ天平勝ヘイテイセウ寶四年ホウシヨウ鑄コシ永祚元年エイソクネン八月大風オホカゼに堂ダウ顛倒テンタウ治曆四年チリキネン鉤懸ツルケと延應元年エンオウネン六月大鐘オホカネ又落オツ同年十月ツ鉤ツ

吊ルと其梁ハリは棚ハンありと云堂カチは四間カチ四面鐘オツの高タカ一丈三尺六寸クチワハシ口徑アツサ九尺一寸三分フウマワリ厚八寸アツサ胴廻フウマワリ

二丈七尺

◎大佛殿ダイブツテン 東大寺コシダウ金堂キンダウ是ナリなり八宗兼學シウケンガクにしクオンて華嚴モトを本ホトと寺領ホシ三千二百餘シヤナフツザ石境イシカイ内八町チハツ

四至シハツなり本尊ホンソンは金銅コンバウ盧舍那佛ロセナハツ坐像ザウ高五丈三ヒコサ尺五寸カサ面長オモテ一丈六尺ヒコサ廣九尺五寸カサ肩長カサ二丈八ヒコサ尺七寸ムネ胸長ムネ一丈八尺アシンウラ左手大指アシンウラ四尺八寸アシンウラ足心アシンウラ

徑一丈餘は準して知るべし螺髻九百六十六個長一尺二寸徑六寸

◎堂高さ 十五丈六尺東西二十九丈南北十七丈内向柱九十六本廻廊東西八十五間南北百間聖武天皇勅立にて天平 勝 寶元年落成其後四百廿八年を経て治承四年 平 重衡の爲に灰燼建久六年再造殿の高廿四間東西四十三間餘南北廿五間餘廻廊東西八十三間南北九十八間餘後又三百七十七年を経て永祿十年松永久秀の兵火に罹る其後百三十四年を経て元祿十四年より寶永五年又至り落成する所の殿高二十四間東西二十九間南北二十六間柱六十本廻廊東西七十七間餘南北六十間三尺現在殿堂即ち是れあり本尊は最初鑄造の儘にて首のみ換り後背高八丈三尺横二丈五尺厚五尺化佛十六体(自八尺至九尺)寶永六年新造脇士左は如意輪觀音右は虚空

藏此二像は享保九年刻成

◎金銅燈爐 (殿前の庭) 八角形高一丈五尺天平年鑄造

◎南大門 (大佛殿二丁南) 高十三間半東西十四間南北五間三尺五寸永祿元年八月大風に顛倒す其古材を用て同年造立或云正治元年修造

◎高麗犬 は有名なり二王木像の運慶湛慶の作と傳ふ天下無双の名あり並に建久七年造立

◎吉城川 (南大門一丁南)  
◎戒壇院 (大佛殿三丁西) に四天王塑像あり技術の模範たり

◎正倉院 (大佛殿二丁乾) 天平 勝寶八歳六月廿一日孝謙天皇より大佛へ獻じ給し御物を藏る御寶庫なり

◎佐保路門 (正倉院三丁西) 一に手掻門俗

に景清門と云今の門は延暦二十年造立

◎此西通 は古の一條大路にて南北は京極大路なり

◎佐保川 (門より二丁北) 八景の一螢の名所也

◎北山十八間戸 (佐保川二丁北) 浴室なり  
仁治元年忍性法師始て造る現室は元祿六年新造

◎般若寺 (十八間三丁北) 舒明天皇の御世  
草造聖武天皇御世伽藍造立律宗寺祿三十石  
今大に衰ふ寶物には嵯峨天皇の宸翰の額護  
良親王潜居し給し經櫃神功皇后三韓退治御  
所用の弓箭あり

◎轟橋古跡 (押上町) 威徳井橋の架る邊  
なりと云

◎雲井阪古跡 (威徳井橋の二丁南) 此邊なるべし

◎氷室神社 (博物館の北東) 祭神大鷲鷯命

額田大中彦皇子鬪鷄稻置大山主此社始め水  
谷川上氷室の鎮主とし祭れり貞觀二年今  
の地に遷す

◎帝國奈良博物館

◎興福寺 境内四町四至七大寺の一法相宗  
あり和銅三年造立今大に衰ふ

◎師範學校 八重櫻の古跡なり

◎大湯屋 (學校の南) 浴室なり應永年間假  
建の儘

◎東金堂 本尊藥師如來坐像此堂に諸佛輻  
輳す何も名作なり現堂は應永廿二年造立

◎花の松 高十四間幹周 三間半枝東西十  
八間餘南北二十二間餘

◎五層塔 高十五丈一尺應永廿六年造立

◎金堂 (中央南面) 本尊釋迦脇士藥王藥上  
當堂の佛菩薩皆名作美術工藝の模範なり堂

は文政二年假立

◎裁判所 (金堂背後) 一乘院宮殿舎なり今の家屋は京都北白河の離宮と正保元年移されしと

◎北圓堂 (金堂の西) 八角形本尊彌勒坐像脇士法苑林大明相皆名作なり永承三年造立

◎南圓堂 (北圓堂南) 西國三十三所九番の札所なり堂八角形七間半本尊三目八臂不空

◎金銅燈炉 (堂の正面) 六角形高六尺四寸扉に序銘あり逸勢筆と傳ふ今寶庫に藏と

◎三層塔 (南圓堂南) 康治二年建立

◎極樂院 (中院町) 律宗寺領百石元興寺の子院今西大寺に属と本堂は養老年中創立の儘本尊阿彌陀如來は稽文會稽首勳の作と傳ふ淨土曼茶羅圖は院主智光の感得と云三曼茶羅の一なり五層塔あり高一丈五尺相傳百

濟の工人元興寺塔建立の時試作する所と云

◎元興寺 (元興寺町) 靈龜二年造立當時の境内六町四面の伽藍あり今大み衰へ觀音藥師四天王等假堂に安置するのみ

◎十輪院 (十輪院町) 眞言宗寺領五拾石開基は朝野魚養或は空海と云禮堂は元正天皇の宮殿の一部を賜て造立と傳ふ護摩堂の石窟魚養塚の碑銘俱に史家一見の價値あり

◎新藥師寺 (高畑町南) 一名香藥寺眞言宗寺領百石相傳天平大佛殿造營の餘材を以て造る聖武天皇御眼病御祈願の爲なり靈驗新なるの故を以て寺號とと本尊藥師坐像當堂に名作の佛像多し就て視るへし

◎新藥師寺 より橋本町に戻りて聖武天皇御陵への方位を尋ぬべし

◎佐保路門 (奈良町大字手貝と今小路の間) 西面し一に手搔門と稱す、般若寺より



此門まで戻り門前の一條大路を西へ行く四丁許

◎聖武天皇佐保山南陵（佐保村大字法蓮）  
奈良町の中央橋本町より十四丁北西に方る兆域周圍三百三十三間五分、南面

◎興福院（佐保村大字法蓮）聖武天皇御陵より四丁許西あり初め添下郡伏見岡の南に在て弘文院と号せしを寛永年間今の地に移して興福院と云淨土宗、寺祿二百石、尼寺にして世々華族の女子住職たり、本堂ハ山腹に在て南面し、庫裡は石階の下左方にあり、境内廣く幽靜にして眺臨に富めり

◎不退寺（全村）興福院より二丁餘西あり、地は平城天皇の宮址にして在原朝臣業平の創造に係る、業平朝臣は平城天皇の玄孫にして阿保親王の五男あり、寺内狹少、本堂、多寶塔、庫裡等存ぞ今大破して常住

なきが如し

◎海龍王寺（佐保村大字法華寺）不退寺より三丁許西にあり、一に隅寺と稱せ法華寺の東北隅に在り、律宗にして天平三年光明後の創建に係る、本堂及東金堂西金堂其他數字あれども今大に頽廢せり

◎法華寺（佐保村大字法華寺）奈良佐保路門より十八丁と云ひ傳ふ、一名國分尼寺又法華滅罪寺と号と、眞言宗にして境内二千五百坪、此地は藤原不比等の第址たりしを光明皇后の創建せらるる所なり、相傳ふ聖武天皇大佛殿内陣に女人の參詣を禁じ給ひまより皇后も亦此寺を建て男子の入を禁せられしと、尼寺おして近くは近衛家より住持せらる、本堂は元講堂たりしと慶長年豊臣秀吉の後室淀姫の修補に係る、本尊は十一面觀音の立像、長三尺二寸、佛工文答師の

作にして秘佛なり或云皇后の尊容と摸刻せ  
るなりと、文珠維摩其他何も傑作なり什寶  
にも逸品多し

◎平城都墟(都跡村大字佐紀)法華寺の西  
五丁許に字大黒が芝と云あり練石もて築り  
り蓋大黒は大極の訛傳にして大極殿の遺跡  
是なるべし坪割の圖と能く合へり抑奈良の  
都は添上添下の二郡に亘りて規模宏大なり  
朱雀大路を中にして東を左京とし西を右京  
とと朱雀大路より東へ一坊より四坊に至る  
の大路あり右京亦同し此道筋は北より南へ  
通と一坊は方四町にして即ち十六町坪なり  
又一坊毎に東西又通とる一條より九條に至  
るの大路ありて東は奈良町興福寺の東雲井  
阪へ行く大路是あり西は郡山町字小川町よ  
り西の京への大路是京極なるべし南は郡山  
町大字鍛冶の東行字來世墓の地即ち羅城門

の在し處にして九條大路是なり一條大路は  
大佛佐保路門西行法華寺街道なり詳に知ら  
んと欲せば寧樂古今圖を求めらるべし

◎西大寺(伏見村大字西大寺)法華寺より  
十八丁西に方る、一名高野寺真言律宗にし  
て南都七大寺の一なり、舊寺祿三百石、境  
内八千五百余坪、孝謙天皇の勅願にして天  
平神護元年創造、開山は常勝僧都たり當時  
寺内三十二町に都率の内院を募し四十九院  
三百餘宇の伽藍にして寺領凡廿萬石ありし  
規模廣大なる巨刹たりしも年序を経て衰微  
したりしを獻尊僧正中興して五丁四面に七  
堂伽藍再興す其後文龜二年兵燹に罹る

本堂は寶曆二年再造、土壁を用ひ悉く木  
材もて之を構ふ本尊は釋迦如來立像、文珠  
善財童子、宇填王、探桑老、佛陀波離三藏  
彌勒等何れも傑作なり○觀音堂は正應元年

造立本尊十一面觀音木像チヨククハシは鳥羽天皇チヨククハシの勅願チヨククハシよして京都より此コノに轉徙テンシと云四天王銅像シヨウテンノウは稱徳天皇の勅願にして天平神護元年鑄造ツウゾウと云○愛染堂アイゼンドウは本堂と同年の造立あり本尊愛染明王アイゼンミョウの弘安四年コウアンシヨウニ家古襲來の時異賊降伏の祈イノリをなせし其滿夜マンヤに明王持ミョウヂつ所の鏑矢カネヤ西に向て飛行せり後遂に異賊退治イサクタイヂとを得たり故ユヘ一箭イチヤの愛染アイゼンと云○護摩堂ゴマドウの不動フドウの湛タン海の作サシおして名作あり○什物シモノおは名品多し且堂宇ドウウ、豊心丹トヨココロニ、茶盛山造等の記キとべき事多し餘白ヨロシなければ省シラく

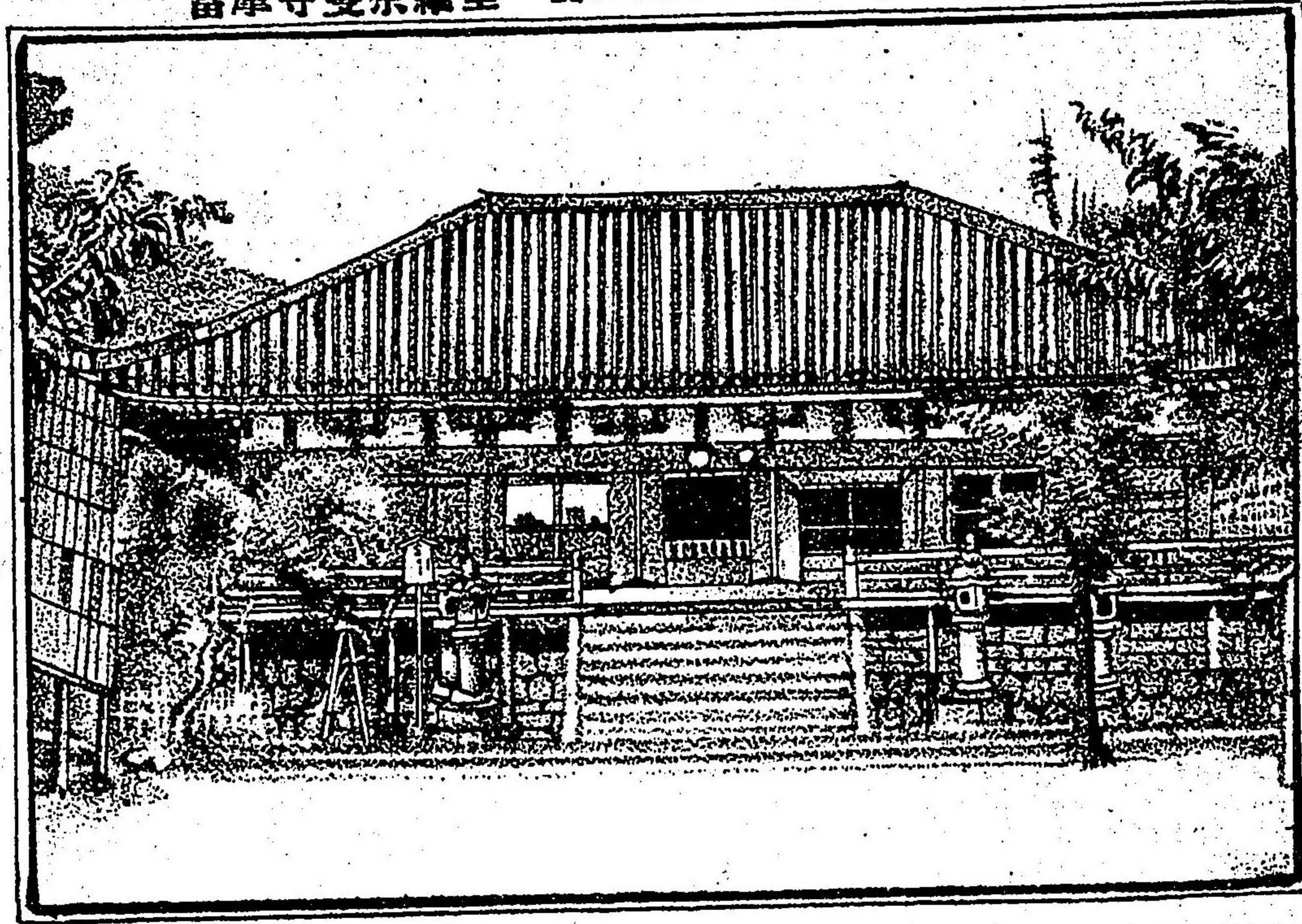
○秋篠寺アキノシラ（平城村大字秋篠）西大寺より西北アキよ方マる八丁許、眞言宗、境内三千六百坪、舊寺祿百石、寶龜十一年勅願に依ヨシて善珠僧ゼンジュ正開基マサカイキとる所にして七堂伽藍ガランイラカを並べし名刹ナキたりしも保延元年兵火の爲め一山焦土セウツに歸キし僅ワヅカに佛像及講堂のみ烟火エンケウに免マダる今本

堂スナハチカウヤウ即スナハチカウヤウ講堂コウドウあり本堂の本尊は藥師如來、傳行基ケイの作、脇士ワキシ日光月光及び十二神將は佛師カスガ春日カスガの作と云、大元明王オホタケミョウ、梵天帝釋ボウテンタイシヤク、十一面觀音イッペンクワン、救脫菩薩キウダツボサツ、技藝天女等キゲイテンニョ孰イデれも參考たるべき名作なり、祖師堂、鐘樓、香水閣、庫裡クラリ、宮使門、南大門等あり

○寶山寺（平群郡北生駒村大字菜畑）西大寺より二里半西アキよ方マる生駒山腹キコマサンブクに在り、巨コ巖ガン兀コトツ突ツツとして空ソラに凌シぐを般若窟ハンニヤクツといふエンニヤクツ役行ヤクセウ者シヤ棲止セウジせし所にして空海クウカイも亦マダ此ココに鍊行レンギョウせしと云延寶六年寶山和尚トウサンクヤウ登山苦行し二十年をイデ出イせして諸堂房舍モラウヤを造立し一峯伽藍イツサンガランとイデ寺イ内ウチ清潔セイゲツにして幽雅ユウガなり詣人ケイジン常に絶間タケマなく寺門シモン大に賑ニギハふ

本堂、觀音堂、聖天堂、方丈ハウチャウ、觀喜院、客殿、庫裡クラリ、寮舍リョウシャ、鐘堂等皆美觀ヒコランなり書院ショイン獅子閣シシカドは峭壁斷崖セウヘキダンザイの上に架カし結構壯美ケツコウサウビなり閣

當麻寺曼荼羅堂 Mandara Hall of the Tae ma-dera.



に登て東望トウダツすれば本州の山野眼底ガンタイに聚り南都景物指點クイブツシツテンとべく風光秀美ソウビなり

是より奈良或は郡山の停車場へ戻り瀛車にて王寺に至り支線シセンを乗り替りて下田驛シモ下車とべし

●下田停車場シモタ (葛下郡下田村大字下田) 王寺停車場より四哩〇六鎖

◎下田村は王寺村の南方五十町許に在り御所街道の一驛にして戸數三百七十人口二千四百餘旅店飲食店等ありて稍市街を成と

◎石光寺セキクワウ (當麻村大字染野下田より二丁南 天智天皇の御世ミヨに此地に彌勒三尊の形カタチをせる放光石セキあり勅ミコトノリして寺と立て彌勒を安じ石光寺と号ナヅケと其後中將法尼如曼荼羅チウシャウハワニニヨマンダラを感得するに當りて化尼ケニの此寺の井水にて藕糸ハスノイトを染めなせしに因チナミて染寺と云、本堂の東手イトカケ糸掛櫻イトカケサクラの井とてあり、境内二百四十六坪、庫裡

茶所等ありて古寺の面影尙存せり、

○當麻寺（葛下郡當麻村大字當麻）石光寺

より五丁許南に在り、奈良へ七里、下田へ

一里、高田へ一里、御所へ二里を隔つ

○ニ上山萬法藏院 禪林寺と号す、初推古天

皇二十年河内の山田郷に在しを白鳳二年曆

子親王の命に依て役小角今の地に轉徙し全

十年伽藍落成と後ち當麻寺と改む、宗旨は

真言淨土の二派にして境内は一万三千五百

余坪、規模宏壯近郷に稀なる巨刹なり○金

堂は河内山田郷より移し立つ、本尊は彌

勒坐像、不動、四天王等名作なり○曼荼羅

堂は造立金堂に同じ中將法如尼感得曼荼

羅の模本を本尊とそ其厨子は鍍金塗みして

総高一丈六尺四寸、其須彌壇は聖漆螺鈿、

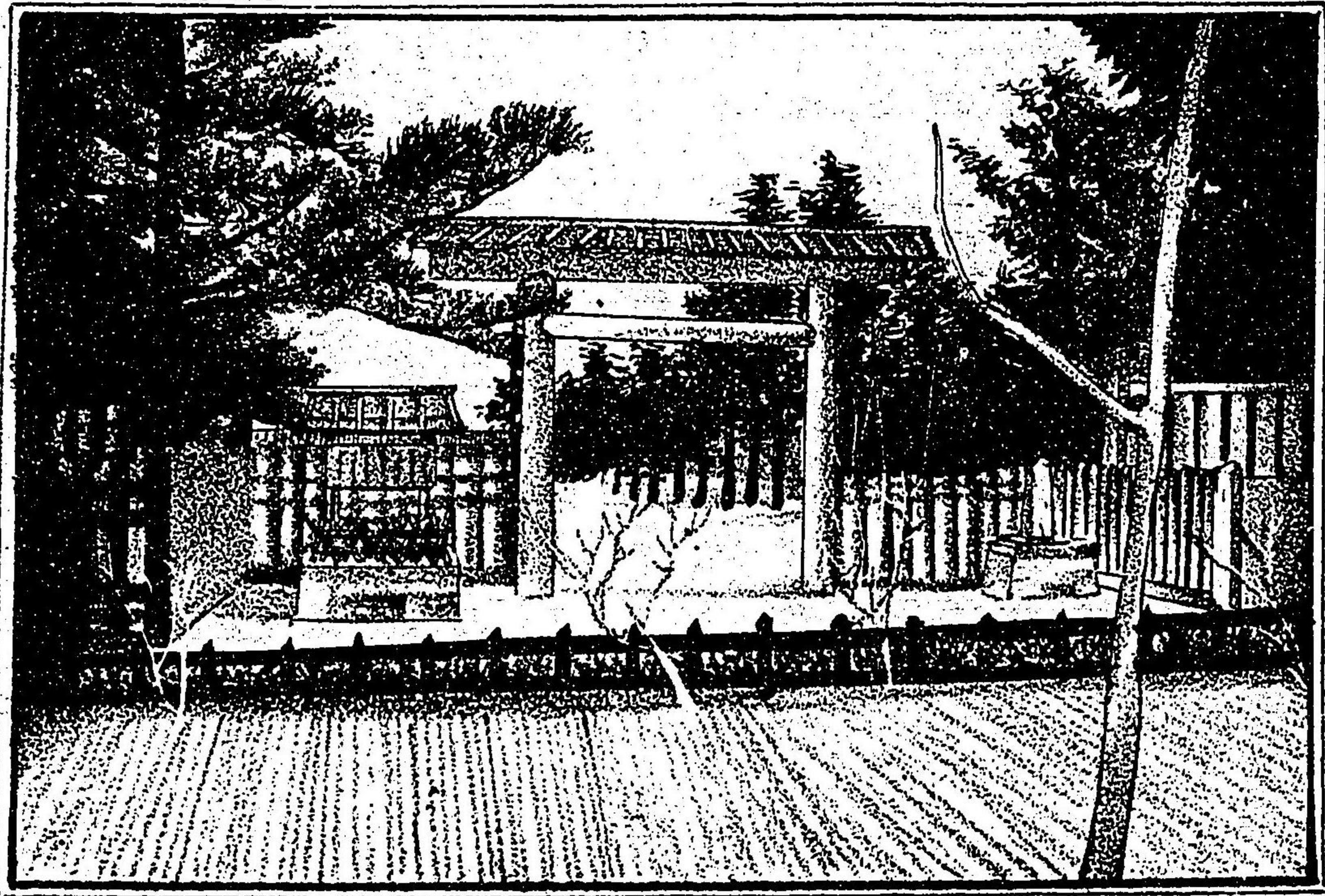
仁治三年五月源賴朝の寄附に係る得難き名

品なり傍に十一面觀音、來迎彌陀共に木彫

おして名作あり、講堂、東西の寶塔、糸線  
 堂、法華堂、大師堂、骨堂、經藏、寶藏、  
 鐘樓四所、奥院二王門等あり、丸子山は蒼  
 樹蔚然として奥院の西南に聳ゆ  
 ◎二上山 は當麻寺の西に雙峙す、其北方  
 は高さ崎と男嶽と稱し低き者を女嶽と云、  
 半ば河内國に跨る  
 ◎櫛羅瀑布 葛城山の一支峯たる戒那山に  
 在り、高田停車場より三十五町南西に方る  
 一に尼ヶ瀨と稱す、高さ五丈八尺、巾一丈  
 八尺、瀧水は崑角に瀾れて腰を打つこと二  
 回、水飛て擴がり勢ひ緩にして沐浴に適と  
 四邊は蒼々たる山嶺高く聳え深谷幽邃たり  
 ◎御所町 は葛上郡の東北に位し、東西五町  
 餘、南北三町餘にして戸數九百四十余、人  
 口四千五百餘を有し、下街道及下市街道に  
 方りて往來繁昌の地なり、奈良へ八里十二

町、高田へ一里二十二町、戸毛へ一里八町、  
 五條へ三里二十六町、とぞ  
 ◎茅原山吉祥寺 (掖上村大字茅原) 御所町  
 の東端より二丁許東に在り、金剛壽院と号  
 之俗に茅原寺と稱す、相傳舒明天皇六年役  
 小角此地に誕生と云、寺は小角の開基お  
 して本堂には五大尊を安じ行者堂には自作  
 の木像及其母の像を置く、堂傍に發懸杉、  
 香精水と云あり皆小角の遺跡なり  
 ◎高田停車場 (葛下郡高田町)  
 下田停車場より三哩〇五鎮  
 ◎高田町 は當麻寺の東一里許に在り、竹  
 内越の街道に方り奈良堺間の一驛にして南  
 は御所、五條、吉野に通し東は今井、櫻井、初  
 瀬に達す奈良へは六里廿六町を隔つ、往來  
 頻繁なり戸數九百九十、人口四千六百餘、  
 商業般賑日に其歩を進むと云へり

神武天皇御陵 Mausoleum of the Emperor Jimmu.



◎<sup>ウチヒ</sup>畝火停車場 (高市郡八木町)

高田停車場より二哩七十六鎖

◎<sup>ヤギマチ</sup>八木町は 高市郡の北部に在り、戸數五百四十餘、人口三千二百餘おして鐵道開通以來は一層殷賑を致せり、高田町を距ること一里十五町奈良へ六里十二町を隔てり

◎<sup>アヒサ</sup>今井町 は八木町の西に在り相距ること僅に三四町お過ず、戸數五百三十餘、人口三千三百餘、其商況は八木町に優るものありしも鐵道通じてより以來稍讓る所あるもの、如しと云

◎<sup>スイセイ</sup>綏靖天皇<sup>ツキタ</sup>桃花鳥田丘上陵 (白樫村大字四條) 兆域周圍四十六間四分、南面西表、畝火停車場より西南十二町許、街道の左頬平地に在り

◎<sup>ウチヒ</sup>神武天皇<sup>ウチヒ</sup>畝傍山東北陵 (白樫村大字山本) 兆域周圍四百七十一間四分、南面東表、綏

靖天皇御陵より三丁許南に在り、宏規崇麗クワツキソウレイにして境域森嚴ケイイキンケンたり稜威赫々リウイカククとして肅拜シュクハイの念を發チンさしむオコ

◎畝傍山ウチベ之神武御陵の南西にありて巖然イワン孤立コリツと香久山カクは全御陵北正東十五町許にあり地は十市郡トイチに属ゾクし南浦村の上方ソベ又聳ソビ々山容秀媚シヨウビあり、耳成山ミミナリは香久山の北十五町許に方り全郡木原村の上方に在り、四面シヤコ田野孤峯森然コウソウシンゼン、三山共トモお他山タサンの相連アヒツラナるをシ古來三ツ山シヨウと稱シし其名尤高しウツ

◎檀原神宮カンハラノ（白檀村大字畝傍）神武天皇御陵より南方九丁許街道の右方に在り、社地カンハラクワウキヨハ檀原皇居の古址にして明治廿三年神宮を創營ソウエイし神武天皇五十鈴姫皇后イスイヒメと齋祀サイシし奉り其四月二日、神靈代遷座式ミタマシロセンザシキを行オコふ、官幣大社レツと列レツを拜殿は京都皇居の神嘉殿シンカデンを模ウツし本殿は内侍所ナイシノゴロなり透廊スキラウを以て之を圍繞ニ繞ウツと、社



地一萬八千坪にして内廊には松、柳を栽え  
境外西南には翠松自から林をなし北方には  
畝傍の碧山峨然鎮をなす社殿壯麗にして巖  
肅たり人として知らず襟を正さしむ

◎久米寺（白檀村大字久米）檀原神宮より  
三丁許南方に在り、眞言宗にして靈禪山東  
塔院と号す、聖徳太子の御弟來目皇子の創  
立に係る、本堂は南面、萬治年再造せる所  
本尊藥師如來木像長八尺、觀音堂は仙人堂  
と稱し十一面觀音木像を安す久米仙人の作  
と云、久米仙人木像は傳云弘法大師作る所  
と、地藏堂、大師堂、鐘樓等あり多寶塔は  
唐僧善無畏三藏留錫の際南天竺の鐵塔に摸  
し其半形即高さ八尺方六間の塔を建て佛舎  
利及大日經を納めしと云本邦に於て多寶塔  
を建ゆる之れが嚆矢たりしと其後焼失せり  
現塔は維新前京都寺務仁和寺より此に轉徙

せるものなりと云○益田池、本堂の背後に  
在り、今全工事中なり此池は弘仁四年築く  
所にして其池は既に絶えたり碑銘は空海の  
撰文なりと傳ふ今年に築く所の者は則其  
縮模にして碑銘は當時の摺本を其儘模刻せ  
るありと云

◎欽明天皇檜隈阪合陵（阪合村大字平田）  
久米寺を距る十五丁東南よ方る、兆域周圍  
四百四十六間一尺五寸

◎皇極天皇孝徳天皇御母吉備姫王檜隈御墓  
阪合陵の東數歩あり兆域間尺の揭示ありし  
奇形人物を刻せる四個の石を墓前に並べ立  
たり此圖は藤原貞幹の好古日録み出せり而  
して何の像たるを詳みせせ

◎高取町 元高取侯の城下にして町村制實  
施以來鄰接八ヶ村を合併して町と稱す戸數  
五百九十、人口三千五百餘久米寺より五十

丁東南

◎高取城 是高取山に在り高取町大字土佐より阪路羊腸を登ること五十町許、要害の地なり、南朝此に築きて北兵を禦げり寛永以後植村氏之に封せられ子孫相繼て維新廢藩の時に及ぶ

◎南法華寺 (高取町大字壺阪) 高取町大字清水谷より阪路十二丁東南に方る、壺阪山腹に在り依て俗に壺阪寺と呼ふ養老年中辨基上人勅を奉て開基する所と云、宗旨は眞言ふして西國三十三所六番の札所あり、総門は巽に面を入て一丁有半二王門に至る、本堂は南面し禮堂と號と八角造、文政年中再興する所なりと云本尊は千手觀音坐像木彫八尺五寸辨基上人の作と傳ふ禮拜堂、阿彌陀堂、三重塔、鐘樓二字、金比羅堂、辨財天堂、納札所、茶所等覽を並て壯麗なり、寺域

二千五百十三坪、群山四に峙ち杉樹陰翳豁壑幽深たり

◎香高山 壺阪寺の東に聳え奥院と稱と山勢峭拔にして藁樹灌叢と、本堂を距ること六丁許に在り山腹處々、怪崑奇石四五あり其面に佛菩薩及五百羅漢又は太古の人の如きを彫刻と頗る古雅にして奇觀なり、又一丁許北へ下りたる所に二個の巨石あり是には兩界曼荼羅を攜せり山腹にある所のものとは年代若くしく彫刻も稍拙なるが如し何人の作に係るか詳ならざれども寺記には眞興上人の經營なりと記せり

◎壺阪寺より四十餘町南方に比曾寺あり此寺に欽明天皇の御世に彫刻する所の本邦造佛の始と稱はる佛像あり頗傑作なり、比曾寺より十町南に下きば北六田に出づ是より三十餘町にして吉野町に達せべし

肅政寺より元の道へ戻り平田村より楠寺へ行くべし

◎楠寺 (高市郡高市村大字楠) 平田村より十七丁西南に方る、奈良へ七里と隔つ、寺は赤部山の北麓に在り、佛頭山上宮王院菩提寺と号し一に安倍島山と云、寺傳お推古天皇十四年七月聖德太子勅を奉して勝曼經を講讀し給ふ時に音樂空に聞え異香薫し千佛面貌を出現と乃ち其地に即て伽藍を建つ梓寺是なり其千佛現出の山を名けて佛頭山と号す即赤部山なり今尙ほ山又其事を勒せる碑立ち古への境内は東西八町、南北六丁餘の伽藍にして金堂、講堂、食堂、五層塔、經藏、鐘樓、中門、総門、及僧房六十餘宇ありしと云今荒廢して太子堂、觀音堂、護摩堂、經堂、鐘樓及東西の二門等あり元治元年以後修覆亦是再造せる所と云へり、宗

旨は天台にまて現境内千六百二十餘坪を有

◎畝割塚 寺内に在り、傳云太子勝曼經講讀の際雨降し曼陀羅華を埋し所なりしと而て其敷石の方六間お造りまは三十六坪と一畝と定めし畝割の制の一分を形したるものなりと云

◎阿字の池 ○三光石、墨染櫻、二面石等寺内に在り

◎此地楠と云は垂仁天皇九十年春二月常世國海外をトキお登岐士玖能迦玖能木實今云楠也と云ものあり其實は人の氣を養ひ、皮は萬病を治と聞召し乃ち田道間守に命て常世國今云海外に遣し之を求めしめ給ふ、十一年を経て景行天皇元年三月間守歸朝を時お外皇既に崩じ給ふと聞て歎じて日遠く絶域に往く萬里波を踏で遙に弱水を度て先皇の神靈に頼て

僅に還り來ることを得たり今帝既に崩じて  
復命を得老臣の生何の益あらん乃帝陵に到  
て自殺と史冊に載る此橋を當寺に栽培せ  
しより此名ありと寺僧は云へり

◎岡寺 (高市郡高市村大字岡) 橋寺より八  
丁東に方る、寺は東光山腰にあり、其西懸  
崖と以て之を構ふ、天智天皇の勅願、義淵  
僧正の開基、東光山龍蓋寺と号す、岡寺は  
則其通稱にして西國三十三所七番の札所な  
り宗旨は眞言にして境内二千二百六十坪、  
寺内閑雅幽深西方遠望に佳なり  
本堂は南面し本尊如意輪觀音を安坐アソ造長  
一丈六尺よして空海三國の土を以て作と云  
樓門堂 には古佛を置く、天智天皇岡本宮  
の御門と拜領せるものみて天皇の二年移し  
立と寺僧は語れり、鐘樓、方丈、護摩堂、  
開山堂、歡喜天及役小角を安アソる所、茶所

等あり、奥院は東光山に在り、本堂を距る  
こと百歩許東に方る、山中に瑠璃井と云わ  
り天智天皇御舊跡と榜示と其東に佛足石、  
毘沙門天堂、稻荷社あり又其右傍に岩窟あ  
り彌勒石像を置く

◎酒槽 (字酒谷山) 岡寺の正北四丁許、櫛  
森の中にあり、長さ十歩許巾之に半し、石  
面に溝槽七條を刻と相傳ふ上古神酒を醸造  
せし所ありしと

◎鳥形山安居院 (高市郡飛鳥村大字飛鳥)  
酒槽より間道四丁許北に方る、飛鳥寺と号  
し村南田畝の間に在り、一堂、鐘樓あるの  
み飛鳥大佛と稱するもの即是なり

◎飛鳥神社 (高市郡飛鳥村大字飛鳥) 安居  
院より二丁東にあり、鳥形山に鎮坐と、式  
内名神大の御社にして俗に元伊勢と稱と、  
石階を上れば八神殿と榜示と右に四社、左

に六社あり、右に登り左に曲れば本殿に至る祭神を問へば曰く天太玉命、櫛玉姫、白瀧姫、賀屋島姫の四柱なりと蓋合殿なるべし又左傍に神殿あり神鏡を齋祀と天照大神の御魂と云又本殿の北位に大社小社あり山内都て八十六社鎮坐なりと云、境内は凡八百坪

飛鳥神社鳥居前と右に取れば談山神社に達し左に行けば文珠院に到る行程一里北東に方る

◎向原寺 (飛鳥村大字豊浦) 飛鳥神社より十町許西に方る、一に廣嚴寺又豊浦寺と云欽明天皇十三年十月百濟國聖明王釋迦乃銅像を貢獻と、天皇群臣に宣問し拜とべきや否や物部尾興、中臣鎌子等皆沮て曰方今改て替神を拜せば恐くは國神の怒を致さん天皇曰卿言爾り然れども聖明の貢舍つ可から

す誰り斯神を奉せんや稻目稽首して之を請ふ乃像を稻目に賜ふ稻目大悦て小墾田の家安置し後ち向原の宅と舍て寺となし像を置く是本邦寺院像設の權興なり今歲天下大に疫と時に尾興鎌子等奏て曰昔日臣曹の奏と須ひ給はせ故に疫災ありと是に於て詔て佛像を難波の堀江に乗て向原寺を焼さ亡さし免たり

◎甘樞岡 向原寺の背後に在り、俗に向山と云、式内甘樞神社を祭鎮と、皇極天皇三年蘇我入鹿家を甘樞の岡に雙起とと史に載す即是也

◎香久山 (香久山村大字南浦) 向原寺より十六丁許北に方る、大和三山の一なり、山上よ天香久山神社二座あり、左は國常立神右は高禰神なり、南麓に上之御前神社あり伊弉諾命を祭る、又一丁許にして下之御前

神社あり伊弉册命を祀れり

◎文珠院 (十市郡安倍村大字阿部) 香久山より三十町許東北に方る、寺は安倍山の南腹に在り大化元年釋道昭に勅して七堂伽藍を創造し阿部山崇敬寺知足院と号したり其後衰微して保延中羅覺上人重興せる所なり

◎本堂 本尊文珠菩薩坐像、長九尺八寸、傳安阿彌作と云雕痕非凡あり、陸奥の永井丹後の切戸と共に本邦の三文殊と稱せられ靈驗新なりとて賽者絡繹として寺門繁昌と云

◎大日堂 大日如來坐像を安と是亦妙作なり

◎地藏堂 は明治十年多武峯を移立つ本尊地藏は白檀木を以て刻むと云、寺域五反九畝歩を有し堂前松櫻散在して清洒なり

◎石窟 本堂の左り懸崖の下に在り、高さ

八尺廣さ七尺五寸奥行三丈九尺、奥に至れば十二疊敷の天井と云あり平面の一枚石を以て之を覆ふ甚壯觀なり其下に不動石像あり弘法大師の作と云、又大日堂の左傍に石窟あり高さ七尺、廣さ六尺五寸、深さ二丈六尺、是には阿遮羅尊石像を安と前お關伽井あり水清冽なり又現境を距る三町東に石窟あり深さ三丈奥に石櫃あり高さ四尺一寸長六尺一寸横三尺八寸周圍一丈九尺八寸傳云高屋安倍神社石櫃と見ねたり、安倍山上よ一本松二本松三本松と稱せる所に至れば大和諸山一眸の中お聚り風光絶佳なり (是より櫻井町に至るべし)

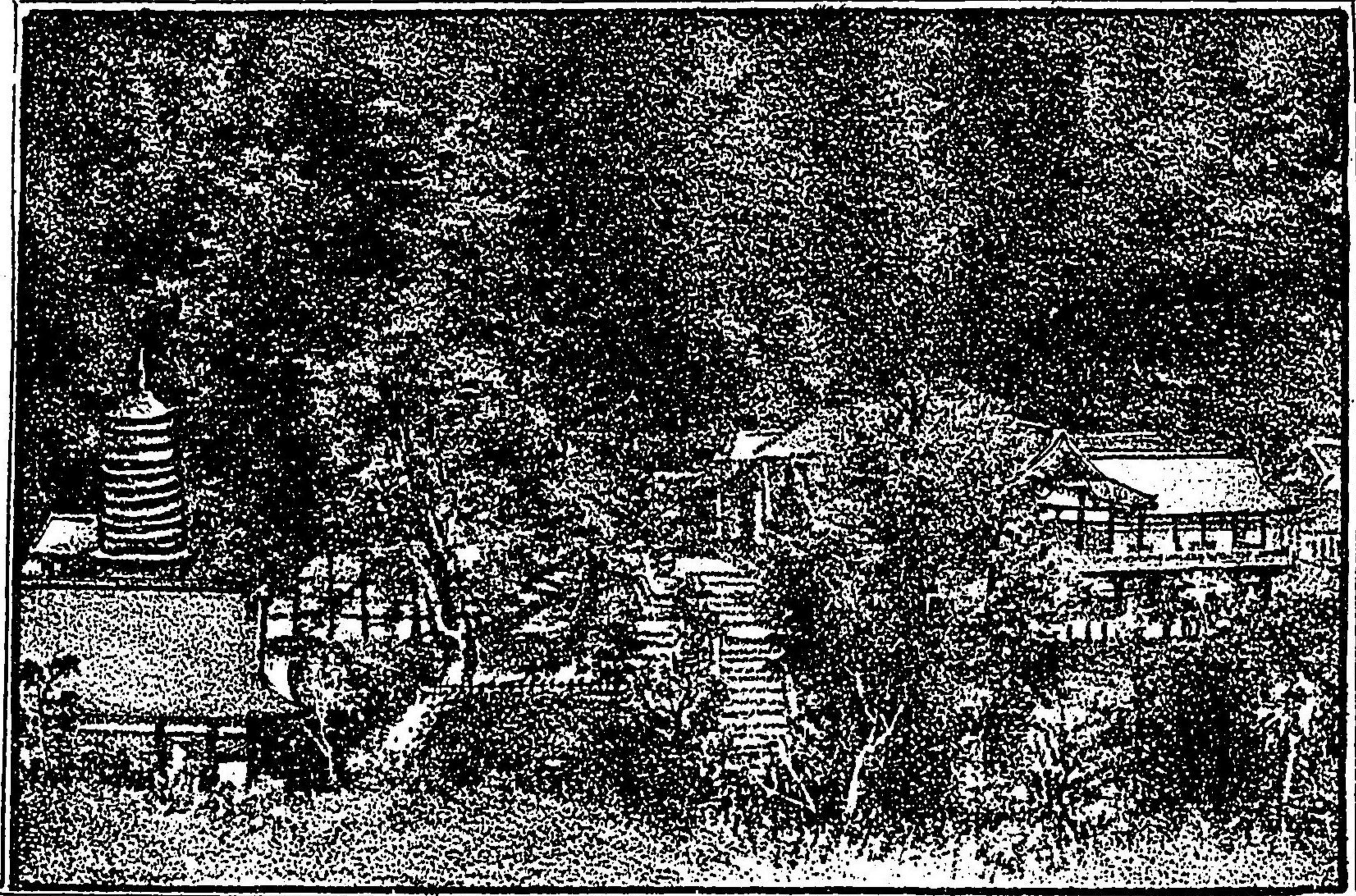
●櫻井停車場 (十市郡櫻井町) 文殊院より八丁餘北に方る畝傍停車場より三哩〇四鎖 ◎櫻井町 は十市郡の東北お位し戸數八百七十餘、人口四千三十餘を有し大和物産會

社、櫻井材木會社等ありて市街繁盛にして  
商賈殷富なり、八木町を距る一里九町、  
奈良へ五里餘、三輪町へ十四町、初瀬町へ  
五十町を隔つ

◎談山神社（十市郡多武峰村大字多武峯）

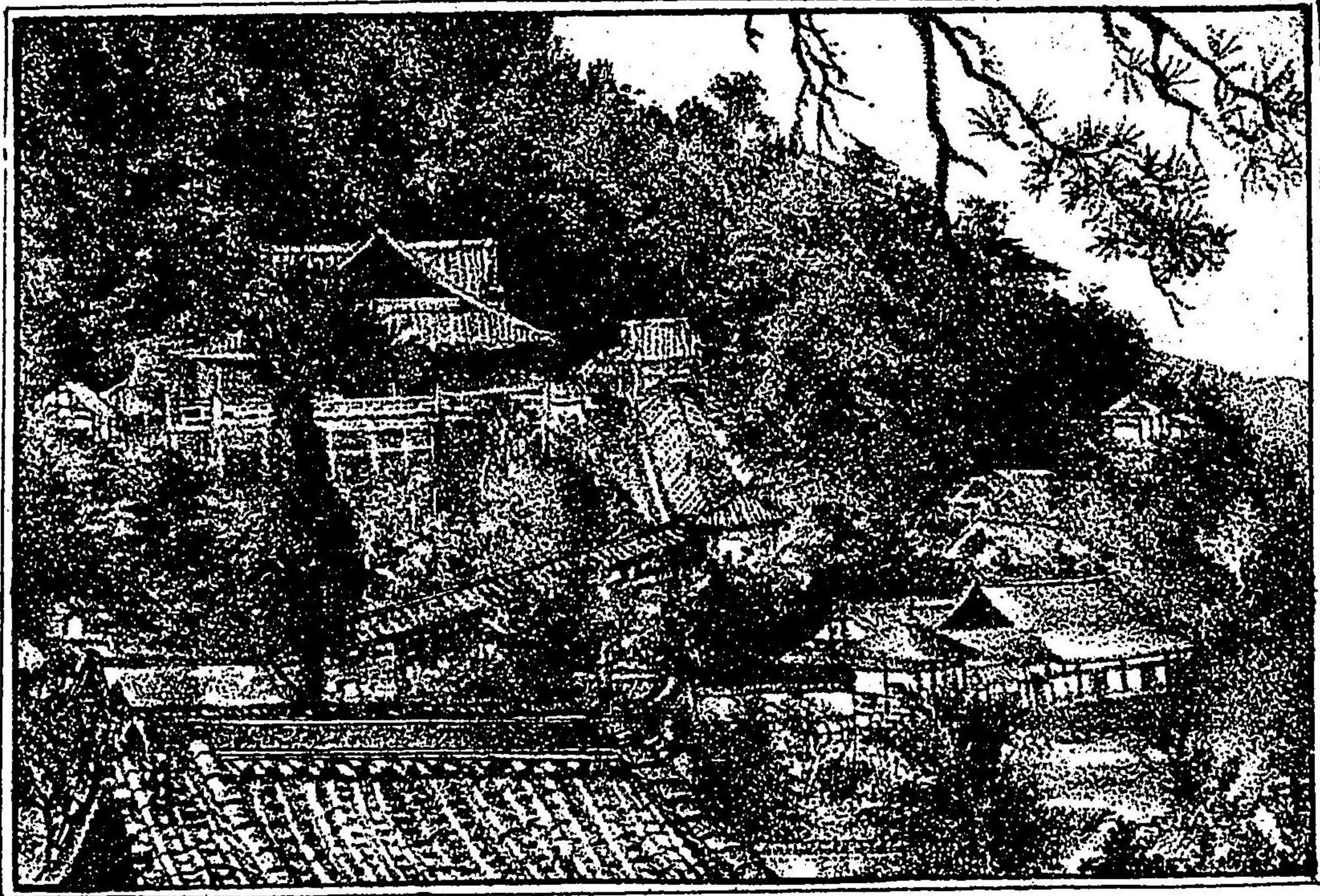
櫻井町より阪路五十丁巽に方る、櫻井の町  
端に鳥居あり石標四十八丁よして東門に至  
る、神社は談山の半腹に在り別格官幣社に  
列せ當社の宏壯美觀ある縣下に其比を見ざ  
る所にして世俗西の日光と稱せ關西に在て  
は其魁たるものあり、祭る所は大織冠内大  
臣藤原朝臣鎌足、公は孝德齊明天智の三朝  
に歴事し入鹿の霍逆を討ち朝廷を資け國家  
を安き後には冠階を改制し禮儀の規を定む  
三朝の善政多くは公の功績に賴る是皆人の  
知る所なり、神殿は南面し高さ十六尺九寸  
五分、方三丈、檜皮葺内白木外朱塗極彩色

談山神社 Danzan Shrines.



大寶元年公の長子定慧和尚チウケイ サウザウ創造にして嘉永  
 三年に至るまで十三回改造せる所なり、神  
 門の左右透樓をスキロウ透らし神樂所は其左に連り  
 拜殿は千鳥唐破風四ツ棟造朱塗高さ二十三  
 尺タ、ミ疊八十八疊を敷く世に千疊敷と唱ふるも  
 の是なり、十三層塔は樓門の西に在り是を  
 神廟と號す高さ四十三尺五寸、方十尺、紅  
 柄塗、檜皮葺、此塔は定慧和尚唐土に在し  
 時父公の計音に接し清涼山なる寶池院の塔  
 を模造せしめ其材と舶に載て歸朝し白鳳七  
 年茲に創立を本邦に於て十三層塔を建つる  
 此に始る嘉永三年之を修理すと云、舊社祿  
 三千石、現境は一萬五千四百七十坪を有し  
 攝社末社斷續相連り社地雅潔にして櫻楓多  
 く北には談山の碧翠と負ひて頗る幽雅深邃  
 なり加ふるに満山櫻楓多く春花秋葉の眺眺  
 に富み殊に春日吉野に遊ぶ者多くは初瀬よ





り此地に巡歴するを常とせ故に古歌に此地  
 を詠して吉野初瀬の花の中宿とは云なり  
 ◎鎌足公墓 是神殿を距ること六町餘北  
 方る宇高嶽と云ふあり一に御破裂山と云古  
 來天下將事變あらんとする時は陵山鳴動  
 し神像破裂せること數回ありしと云公の墓  
 は初め攝津國島下郡阿威山に葬りしを定慧  
 和尚歸朝して弟不比等公と謀りて白鳳七年  
 十一月茲に改葬せられしと云  
 ○初瀬町 是式上郡の東南に位し人家櫛比  
 通衢繁昌せり、戸數六百餘、人口二千七百  
 餘、此地に參詣の多き長谷寺あるを以て隨  
 て市店の殷賑を致すと云、三輪へ一里餘、  
 奈良へ六里餘を隔つ  
 ○長谷寺 (式上郡初瀬町大字初瀬) 談山神  
 社より二里半良に方る豊山神樂院と号し眞  
 言宗新義派大本山にして境内二萬六千餘坪を

有す、寺は初瀬町の北端初瀬山の半腹に在り、神龜元年道徳上人勅と奉て開基とる所にして結構輪奐たり天慶七年五月九日祝融の災に罹り諸堂烏有に歸と同九年復之を再營し舊態の美觀を呈と其後永承嘉保建保弘安明應天文等數回の火ありて其都度建立あり最終は慶安三年將軍家光の造立とる所なり

◎本堂 は南面し桁行五間、梁行十四間半前面に舞臺ありて眺望尤多趣なり、本尊は十一面觀音立像、木彫金色長二丈六尺、天文七年大佛師但後の作と傳ふ

◎登廊 は総門より本堂に到石階の上お架と幅二間、長さ百九間半なり總門は南面し二階造樓門にして二王像を安と、共に慶安三年の建立にてありしを明治十五年十二月九日焼失し廿五年の再造に係る殊に美觀な

り  
 ◎講堂 は総門の西上方に在り、寛文七年將軍家綱創造せる所、是れ本坊にして小池房と稱し俗よ千疊敷と云是なり、其餘卅二の佛堂、十三の僧院、二十五の庵室斷續本堂の上下左右に連り其記すべき者尤多し然れども繁を厭ひて之を略そ、抑當寺觀音は古へより其名高く泊瀬山の櫻花と共に世に著はれ賽者の多きこと國內寺院中第一位を占むる名利なれば自然收益も饒なるが故に寺院も亦殷富にして初瀬町及近郷の繁昌を致せる甚大ありとそ、寺は山腹を憑て南面し初瀬町直下にありて眺望秀麗なり畜に櫻花牡丹のみならず四時共よ佳景あり  
 ◎興喜天満神社 初瀬町の東興喜山に鎮座と、社地千二百餘坪を有し喬杉蔚然として賽路の左右に連りて閑靜あり、社殿は第一

高所にありて瑞籬と以て之を圍み左右に小社五坐あり又社傍に影向石、影向松、手水舎、前に神樂所等あり嚴整あして自ら神徳の高さを示せり

◎三輪町 は式上郡の西南に位し奈良初瀬間の街道に當る一小都會なり、式上、式下十市の三郡を管治せる郡役所の所在地にして警察署、裁判出張所等設置あり、戸數四百八十餘、人口二千六百餘を有し近來大に繁華あ進むと云、院本よ云へる梅川忠兵衛の遊びし茶屋と云もあり世に名高き三輪素麴は此地より出つ、初瀬町を距ること五十丁西に方る奈良へ五里餘を隔つ

◎大神神社 (式上郡三輪町大字三輪) 初瀬町より五十丁西に方る、三輪町の東に在り官幣大社にして大物主櫛瓊玉命を祭る 卽大國主の和魂神に坐と亦名大物主神と稱と

神代より三諸山ミモロ即三輪山ミヅノ鎮坐チンザの儘、崇神天皇の御世に始て祭祀サイシする所サトは別ワカに神殿カミの設セなナし三諸山ミモロは即スナハチ神殿カミにして麓フミトに拜殿ヒツあり千鳥唐チトリカラハフ破風クナユキ日本造ハリユキ桁行七丈一尺餘、梁行二丈四尺餘、崇ソウレイ麗レイにして偉觀ヱクワンなり、三諸山ミモロは神並山ナヒヤマ又三輪山ミヅノと稱シヨウじ孤峯ホウシユン峻拔ツクワツ喬樹ニチウツ鬱オンツカ鬱ダサとして自ら他山コトナに異コトナれり人をして神山カミたるを思ヒひ及キヨカウはしむ、官祭ケンセンシヨは四月九日を以て舉行せらる、神饌所ヒンセンシヨ、社務所、勅使殿、及攝社未社等二十餘宇あり又活日川イクヒガハ、狹井川ササガハ、印シムツの杉、二本杉等の名跡多し

◎大和神社オホヤマト（山邊郡朝和村大字新泉）三輪町より一里半北に方る、是亦官幣大社に列レツし崇神天皇五年鎮坐チンザにして神殿カミは垂仁天皇廿五年に創建ヤウコンする所あり祭神は大國御魂神オホクニミヤマ八千矛神ヤチホコ、御年神ミトシの三柱ミハツラを祭祀サイシと、大國御魂神オホクニミヤマは大神神社オホミツノに坐マと大國主オホクニヌシの荒魂神アラミヤカミあり

神殿三宇東面し神門スキラウの左右透廊コレを以て之に繞メシラし翠樹スイジュン森然センとして社後シヤゴを圍カコめり、現境内二町四反六畝歩なれども往古は廣大にして方八町なりしと云、官祭は四月一日を以て之シツカウを執行せらる、星山ホシは社務所の東南にあり是れ崇神天皇五年に大神等の鎮オホカミり坐シツマせし所なりしと

◎官幣大社石上神社イソノカミ は山邊郡山邊村大字布留フルに在り當社より廿五丁東北に方る  
◎天理教會 は全村三島アヌふ在り當社より一里許北東に方れり

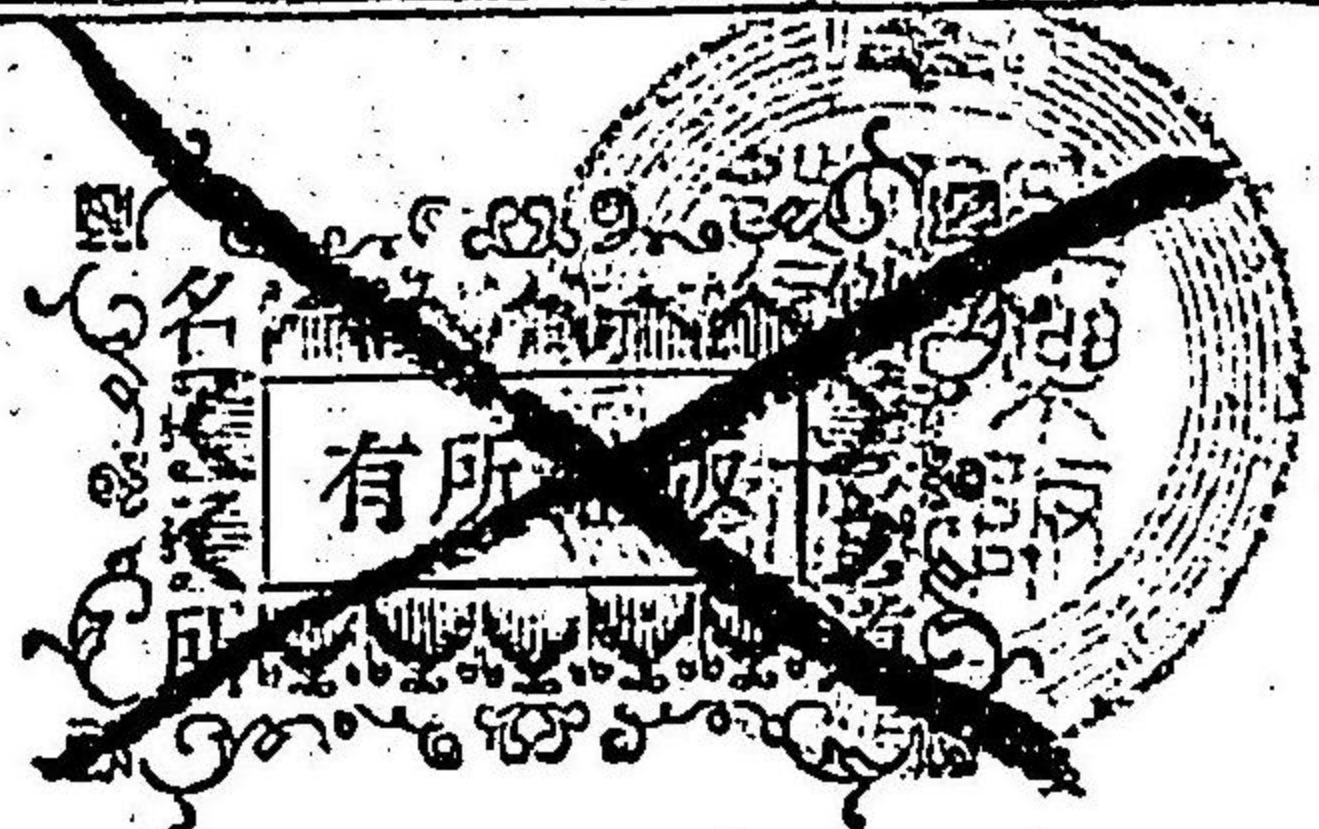
明治二十七年十二月一日印刷  
全二十七年全 一月七日發行 定價金八錢

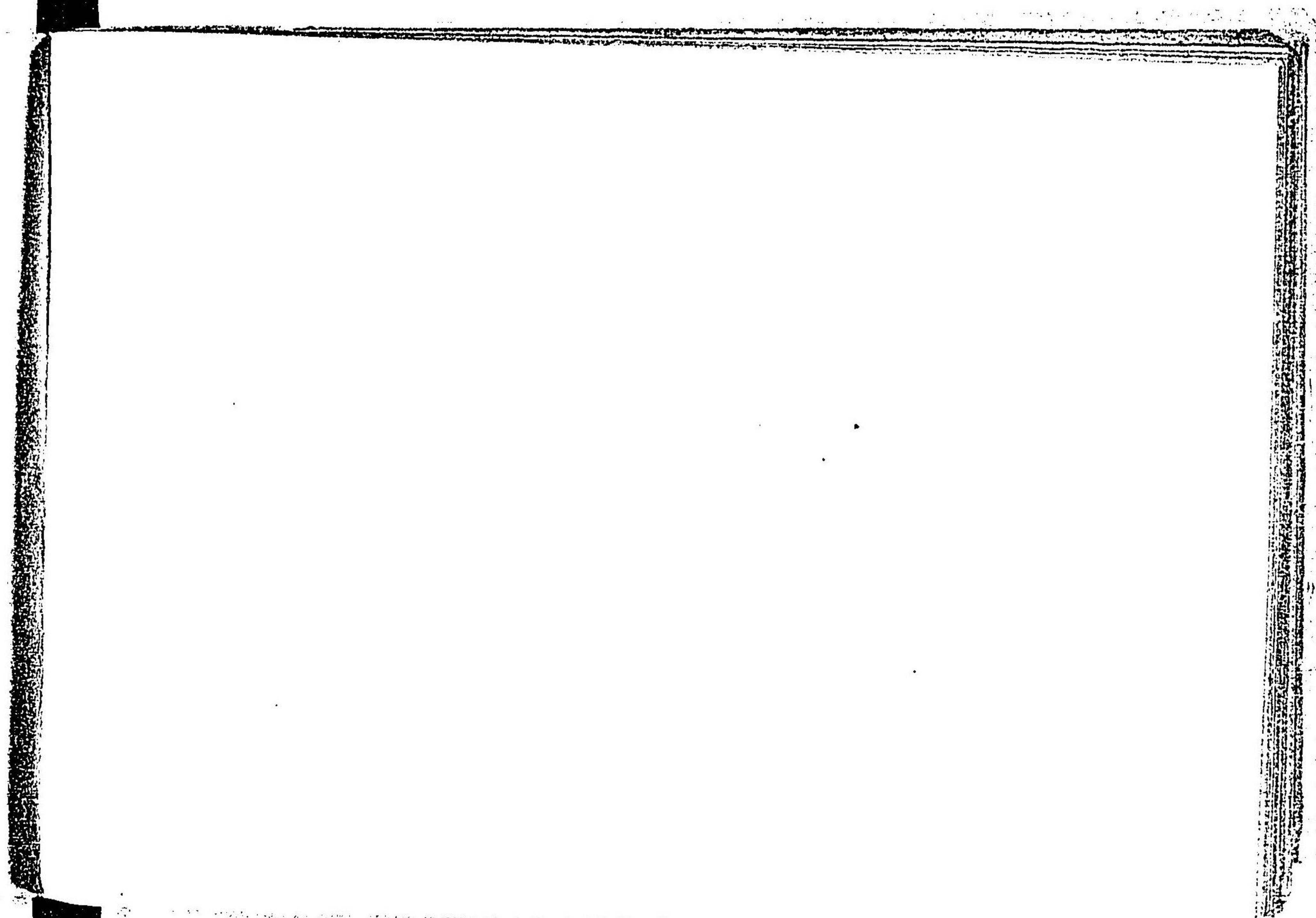
著作者 塚田武馬

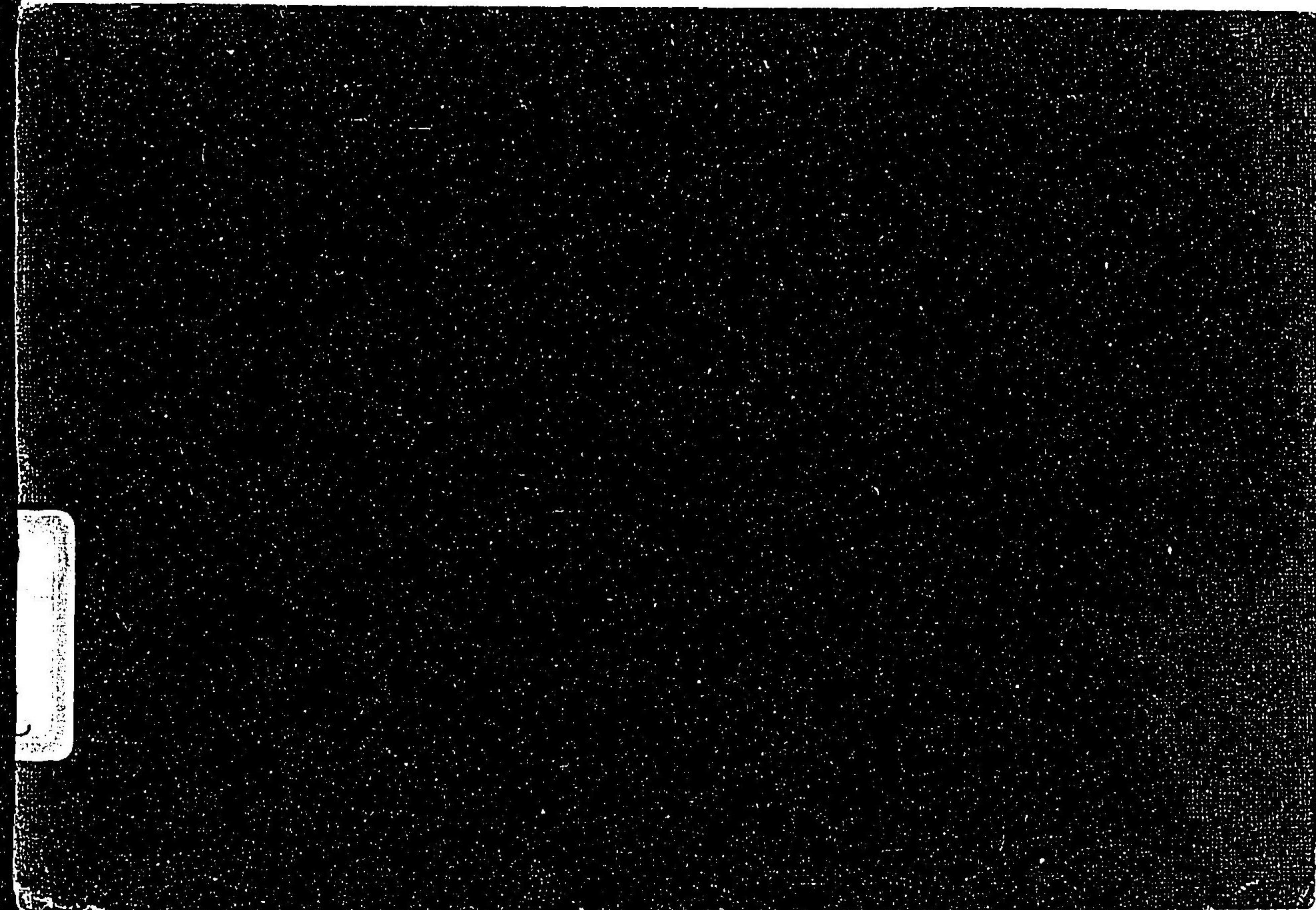
發行所 大阪府大和國添上郡  
奈良町大字杯本一番地  
發行者 阪田一郎

印刷者 瀨戶清次郎  
大阪府大阪市西區綱下通一丁目四十八番屋敷一成舍

發賣所 大阪心齋橋通博勞町  
青木嵩山堂







Small, illegible white rectangular label or sticker on the left edge of the dark area.



特  
7

025221-000-0

特65-798

大阪鉄道名所案内

五峯 隠士/著

M28

ADC-2624

